

平成19年度

学習状況調査実施報告書

確かな学力をはぐくむ 学習指導の改善のために



平成20年1月

「確かな学力」向上のための
プロジェクト推進委員会

函館市教育委員会

刊 行 に 寄 せ て

近年、核家族化や少子化、情報化など、社会が大きく変化する中で、心豊かで活力のある社会を築いていくためには、各学校が、これまで以上に、特色ある教育を展開し、基礎的・基本的な内容を確実に身に付けさせ、自ら学び自ら考える力や豊かな人間性、たくましく生きるための健康や体力などの「生きる力」をはぐくむことが一層重要です。

各学校におきましては、教員の資質や指導力が子どもに与える影響は極めて大きいことから、子どもたちの実態に応じて、校内研究のテーマを設定し、教育課程の見直しや授業改善に向けた実践的な取り組みを進めてまいりました。

また、函館市教育委員会におきましても、平成15年度から、小学校第5学年において、国語科と算数科の標準学力検査を実施し、検査結果を「確かな学力向上のためのプロジェクト推進委員会」で分析し、学習指導の改善についての継続的な検討を進め、報告書を作成して各学校に示してまいりました。

本報告書は、この度4回目の発刊の運びとなりますが、児童生徒一人一人が学習への意欲を高め、確かな学力を身に付けることを期待して作成したものです。

各学校におきましては、本報告書を活用し、「確かな学力」の向上のため、充実した教育活動を積極的に展開されますよう期待しております。

終わりに、本報告書の発刊に当たって、市内各小学校及び「確かな学力向上のためのプロジェクト推進委員会」の皆様には、多大なご協力をいただきましたことに対しまして、心からお礼申し上げます。

平成20年1月

函館市教育委員会教育長

多賀谷 智

目 次

刊行に寄せて

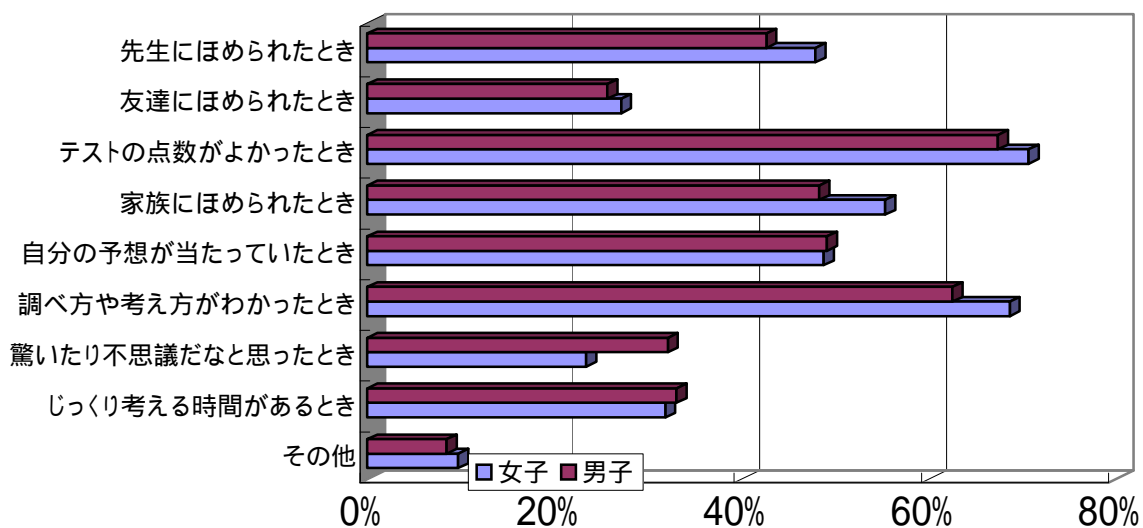
目 次

1	調査の概要	1
(1)	調査の目的	
(2)	調査の内容	
(3)	調査対象学年及び教科等	
(4)	調査対象学校数及び児童数	
(5)	調査実施方法等	
(6)	調査における留意事項	
2	調査結果の概要	3
(1)	国語科	
	観点別得点率	
	領域別得点率	
(2)	算数科	
	観点別得点率	
	領域別得点率	
3	調査結果の分析	4
(1)	国語科	4
	領域別問題通過率（平成17・18年度）	
	検査結果における個々の問題の概要およびその通過率	
	国語の学習に関する意識調査の結果 過去2年間	
(2)	算数科	9
	領域別問題通過率（平成17・18年度）	
	検査結果における個々の問題の概要およびその通過率	
	算数の学習に関する意識調査の結果 平成18年度のみ	
4	学力向上のためのポイント	14
(1)	国語科	15
	国語のポイント	
	確かな国語の力をはぐくむために	
	【ポイント1】【ポイント2】【ポイント3】	
(2)	算数科	21
	算数のポイント	
	確かな算数の力をはぐくむために	
	【ポイント1】【ポイント2】【ポイント3】	
5	学習意識調査の結果と考察	28
(1)	学習意識調査の結果一覧	
(2)	学習に向かう構えや意識に関する考察	
6	今後に向けて	34
(1)	成果と課題	
	成果について	
	課題について	
(2)	今後に向けた取組の必要性	

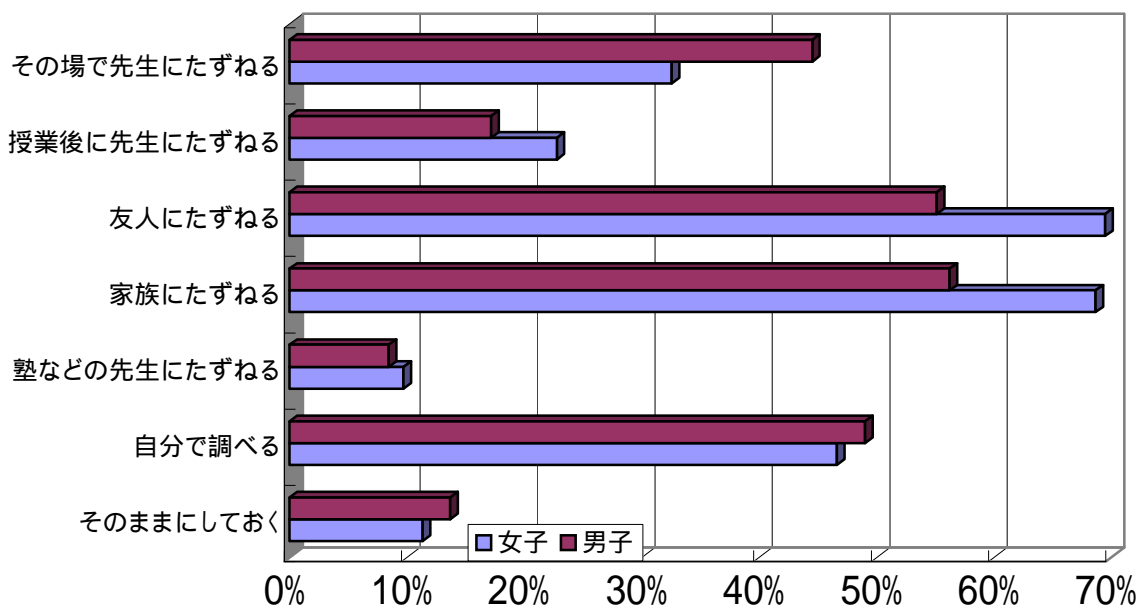
5 学習意識調査の結果と考察

回答数: 2,215名(回収率99%) 実施時期:平成19年1月～2月
 函館市内小学5年生 男子1,112名,女子1,102名(学力検査実施学年)

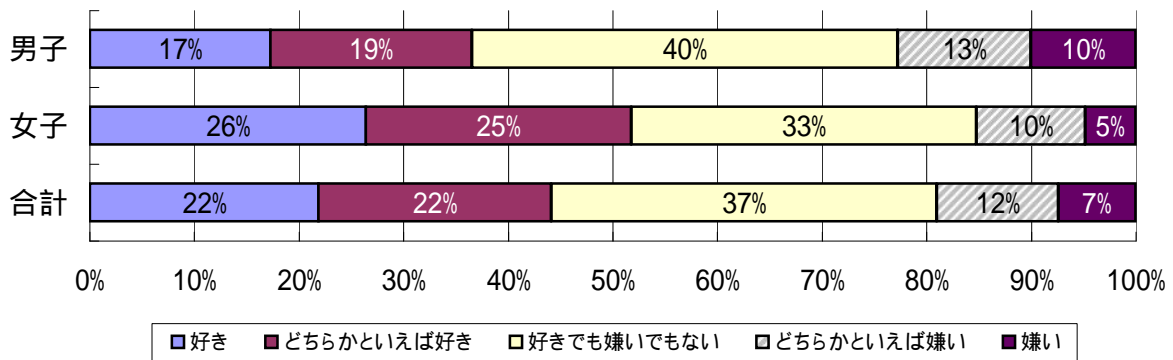
設問1 勉強のやる気が出るとき



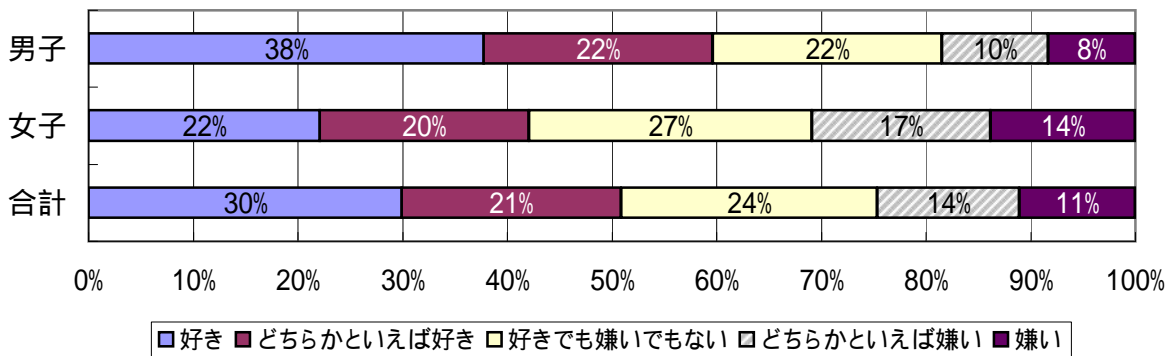
設問2 授業でわからないことができたとき



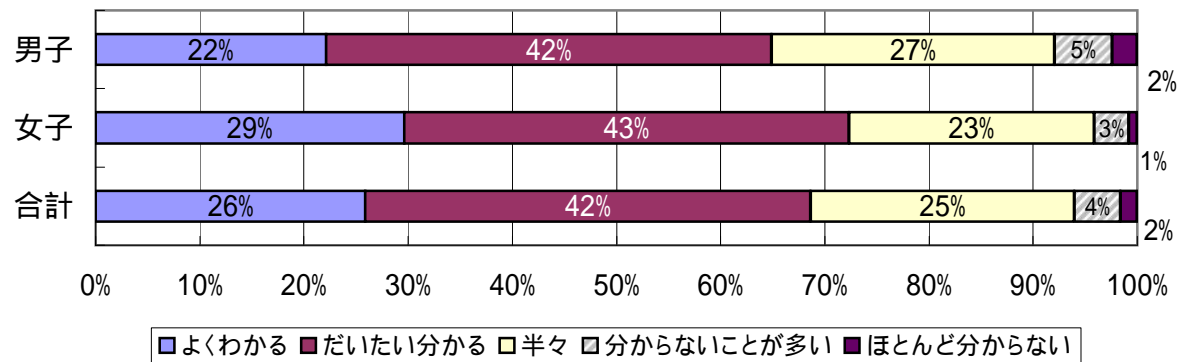
設問3 国語の勉強が好きか



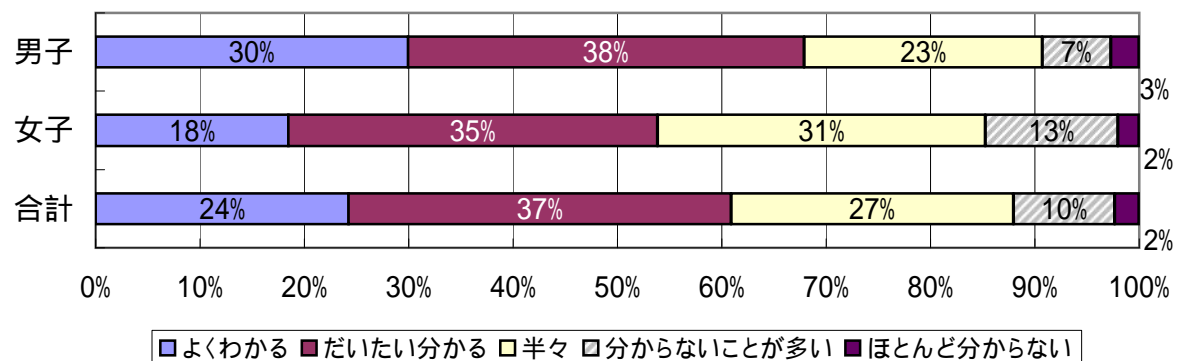
設問3 算数の勉強が好きか



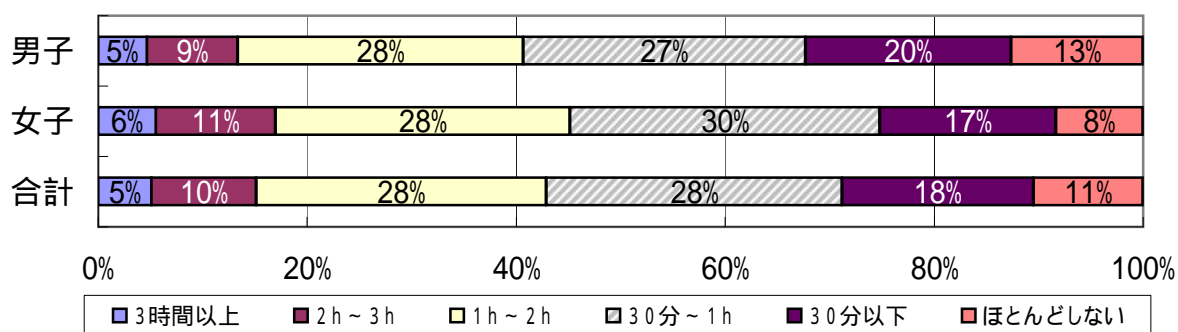
設問4 国語の授業がよく分かるか



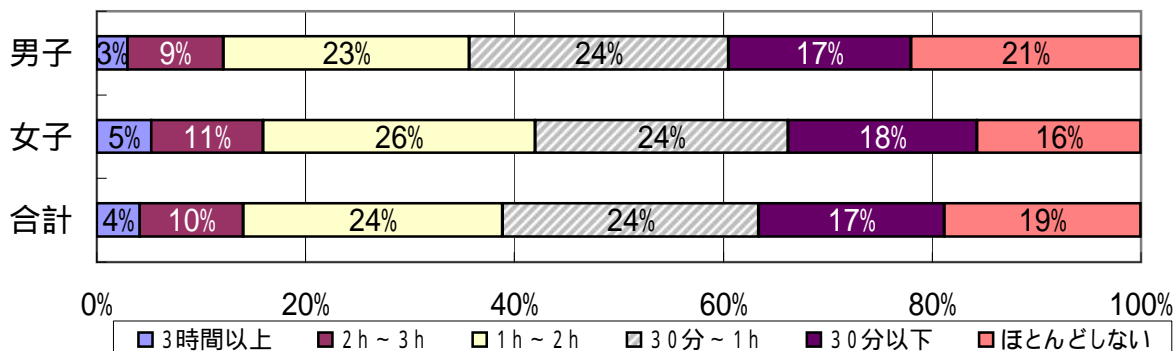
設問4 算数の勉強がよく分かるか



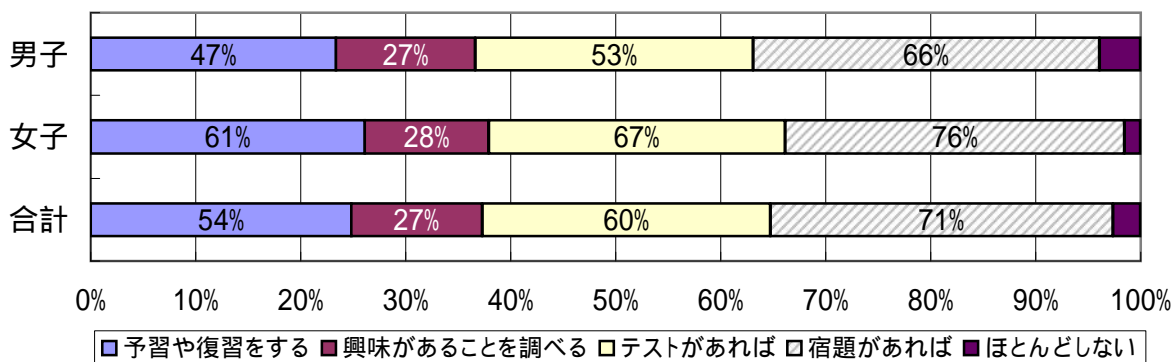
設問7の1 家庭や塾での勉強時間(平日)



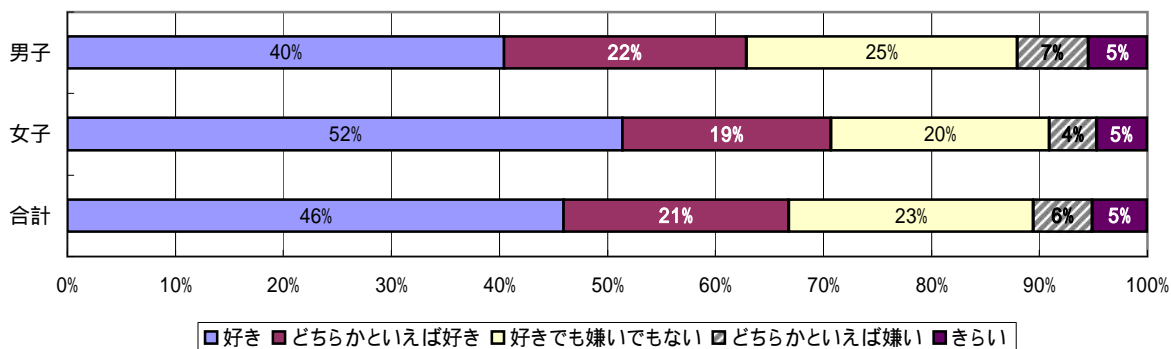
設問7の2 家庭や塾での勉強時間(休日)



設問8 家庭学習の取り組みの様子

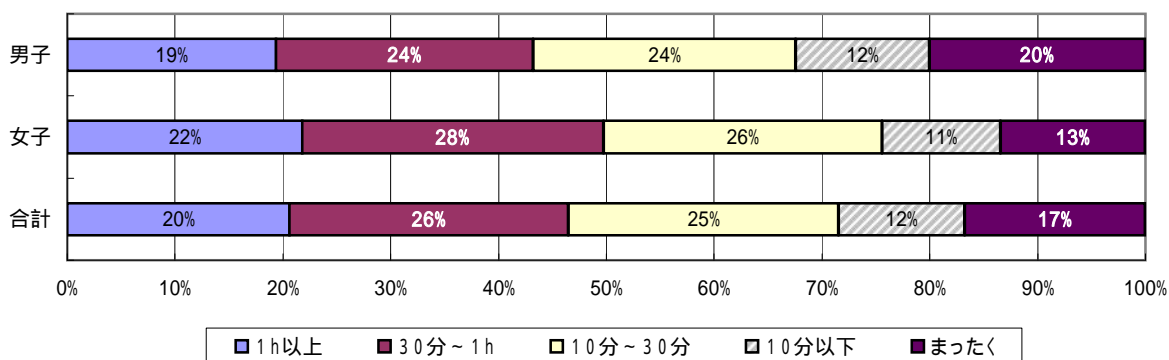


設問9 読書をするのが好きか

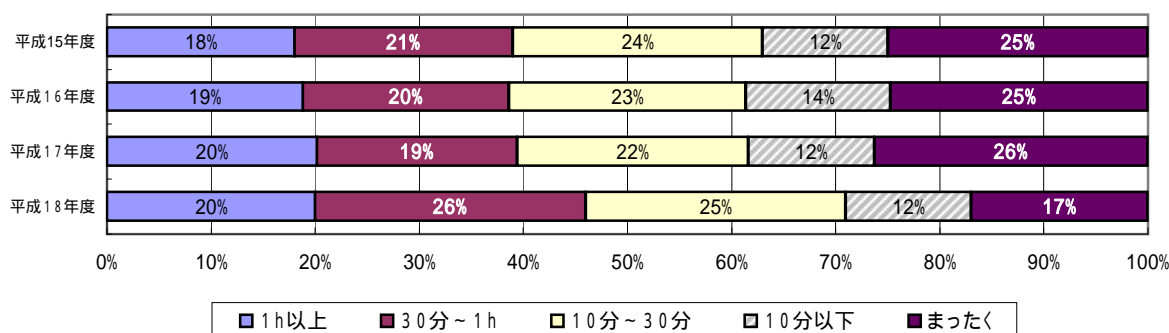


設問5, 6は, 7, 8, 12, 14ページ参照してください。

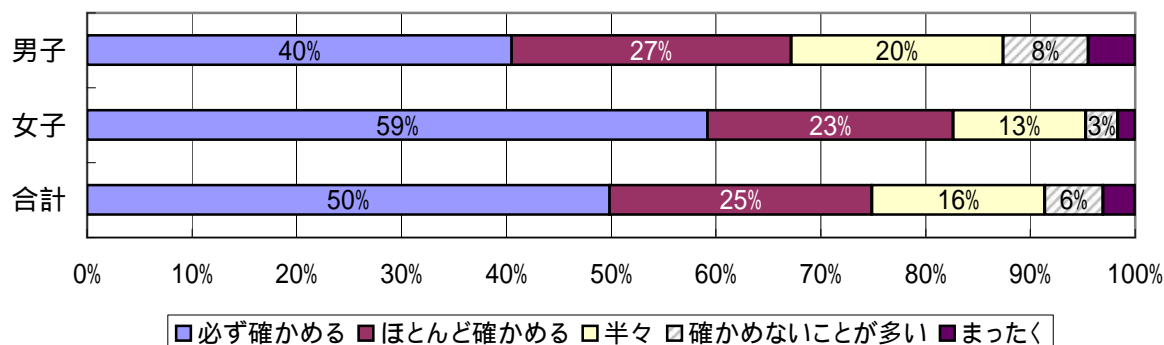
設問10 家で1日どのくらい読書をするか



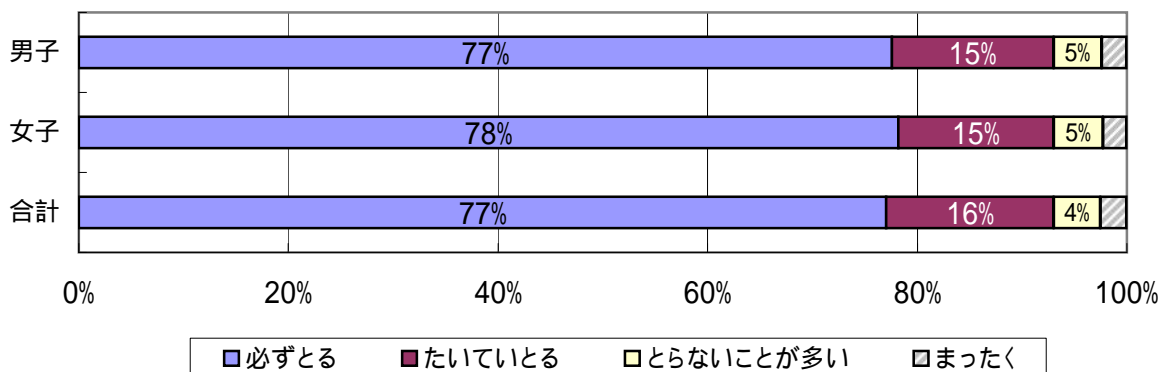
過去4年間の家庭での読書時間の推移



設問11 勉強道具の確かめ



設問12 学校に行く前に朝食をとるか



(2) 学習に向かう構えや意識に関する考察

この調査は、学習に対する意欲や取り組み状況を見るものである。どのような時に学習の意欲を自分で感じるか、また国語や算数の学習においてどのような学習を好むか、国語と算数の授業は好きか、わかるか、さらに家庭での学習時間や読書の状況、朝食の摂取状況についてアンケート形式の設問で構成した。

この学習状況調査は、当該学年を過去3年間にわたって同じ質問で行ってきたが、昨年度は調査項目を一部変更した。この調査により、本市全体の児童の傾向、教科の学力の背景となる児童の一人一人の学習意識を把握することができると思う。既存の項目では一部を除き、大きな数値の変化はないことから、函館市の児童の傾向を現すものとする。

ア 集計結果から読み取れる傾向

勉強のやる気がわいてくる時

「テストの点数が高かった時」「調べ方や考え方がわかった時」と解答した児童の割合が非常に高い。また、「先生にほめられた時」「家族にほめられた時」と答えた児童も比較的高かった。このことから、「できる」「わかる」「ほめられる」体験が児童のやる気を高めると考える。

「授業でわからないことがあった時」

「友だちにたずねる」「家族にたずねる」と答えた児童が圧倒的に多い。また、「その場で」と「授業のあとに」を合わせると「先生にたずねる」も比較的多い。

「国語の勉強は好きですか。国語の授業はわかりますか。」

「好き」「どちらかと言えば好き」の合計が44%、「よくわかる」「大体わかる」の合計が68%であることから、国語の勉強は「わかる」が「それほど好きではない」といった考察ができる。

「算数の勉強は好きですか。算数の授業はわかりますか。」

「好き」「どちらかと言えば好き」の合計が51%。「よくわかる」「大体わかる」の合計が61%。「どちらかと言えば嫌い」「嫌い」の合計が25%。「わからないことが多い」「ほとんどわからない」の合計が12%であることから、算数の場合、「好き」「嫌い」「わかる」「わからない」が両極端の傾向にあることがわかる。

「好きな国語の学習・家庭でよく取り組む国語の学習について」

好きな国語の学習では、「資料をもとに話し合う」「物語や詩」「漢字」「辞書」が比較的高い。家庭で取り組む学習でも「漢字」「辞書」「音読」が多い。比較的取り組みやすい学習に偏る傾向にあると考える。

「好きな算数の学習・家庭でよく取り組む算数の学習について」

大きなばらつきはないが「計算」「面積」が比較的好きな学習、よく取り組む学習となっている。国語と同様、算数も比較的取り組みやすい学習に偏っていると考える。

「家庭での学習時間や内容について」

平日、休日ともに家庭で学習する時間は増えている。特に「1～2時間」の増加が顕著である。また、家庭学習の内容として「テスト準備」と「宿題」が圧倒的に多い。

「読書に関する状況について」

読書に対する意識調査では、7割近くの児童が「好き」「やや好き」である。また、読書の時間については昨年度の調査結果と比較して増えている。読書を「ほとんどしない」が減り、「30分～1時間」が大幅に増えている。このことから児童の読書への興味関心は高く身近なものとなっていると考える。

「勉強道具の準備状況について」

勉強道具の準備状況については、約8割の児童が、「必ず確かめる」「ほとんど確かめる」で昨年度より微増している。

「朝食の摂取状況について」

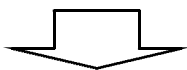
朝食の摂取状況調査では、「必ず食べる」77%であり、全国平均(約90%)と比べるとかなり低い傾向にある。

4 学力向上のためのポイント

〔国 語〕

平成18年度の調査結果から、「話すこと・聞くこと」領域は、比較的高い得点率であるが、P3調査結果の概要の得点率にあるように、『スピーチするときの注意』に課題が見受けられます。「書くこと」領域では、『段落の構成を考えて書くこと』、「読むこと」領域では、『文脈に合う語』『要約した内容の理解』『詳しい内容の読み取り』、「言語事項」では、『漢字の由来』『漢字の書き』が課題として考えられます。

学習指導の改善の視点として、学習意識調査の結果などから、国語の学習に対する関心や意欲を高める工夫が必要であり、また、国語科で学習した内容を他教科や総合的な学習の時間などで意図的に活用し、十分に定着を図ることや、小学校から中学校へつながる言語能力の育成を図るために、各領域ごとの指導内容の系統性を踏まえた指導を行うことが求められます。



- ポイント1 関心や意欲を高める授業改善の工夫
- ポイント2 他教科との関連を図った国語の指導
- ポイント3 中学校へつながる言語能力の育成を意識した授業づくり

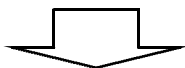
〔算 数〕

平成18年度の調査結果を見ると、どの領域でも「数学的な考え方」に関する問題の通過率が低く、この能力の育成が依然大きな課題として挙げられます。

意味理解が十分でないまま、計算したり公式を使ったりして誤答する児童が多く見られました。実感を伴った理解ができるよう算数的活動を積極的に取り入れることが大切です。

また、前学年までの学習内容を十分理解しているかどうか、学年間の系統にも着目する必要があります。さらに、問題を数学的に読み取ることや解決の見通しをもつことに課題があることもわかりました。誤答や無回答の子供たちは、問題解決の手順がよく理解されていないのではないかと考えられます。

学習指導の改善の視点として、学年間の系統を大切にしながら実感を伴って意味理解を深めたり、問題を数学的に読み取ったり、解決の見通しをもたせるための指導が求められます。



- ポイント1 学年間の系統を見通し、実感を伴った理解を図る指導の工夫
- ポイント2 問題の意味を数学的に理解させ、解決の見通しをもたせるための工夫
- ポイント3 算数から数学に移行するための指導の工夫

(1) 国語科
国語のポイント

ポイント1

国語学習への関心や意欲を
高める授業改善の工夫

国語に関する意識調査では、4点の意識調査を行いました。

「国語の授業が好き」「やや好き」	44%
「よくわかる」「大体わかる」	68%
「好きな国語の勉強」	} ほとんどの項目 50%以下
「よく取り組む国語の学習」	

と、いう結果が得られました。以上のことから、「国語の授業はわかるけど、あまり好きではない。」という傾向にあると考えます。

このことから、特に関心や意欲を高めることに視点を当てた授業改善が、学力向上へとつながると考えます。関心や意欲を高めるためには、

やってみたくなる(話したい・書きたい・読みたい等)
体験を取り入れた言語活動

が大切になります。ここでは、子どもたちの意欲を高める学習(漢字の成り立ち・アニメーション)の紹介をします。 → P16~P17

ポイント2

他教科との関連を図った
国語の指導

国語科で育てる言語能力は、他教科や道徳及び特別活動、総合的な学習の時間を支える基本となります。学力検査での漢字の書き取りでは、検査結果にもあるように、社会科、理科で用いる「貿易」「実験」の通過率が高く、逆に「光景」の通過率が低くなっています。

子どもたちは国語の学習の中で基礎的・基本的な内容を学び、教師が意図的に他教科の学習の中で、繰り返し活用させることにより、言語能力がさらに高まります。

このことから、ここでは特に、国語で培った学習と関連が深い「総合的な学習の時間」の具体的な例を紹介します。 → P18

ポイント3

中学校へつながる言語能力の
育成を意識した授業づくり

学力検査では「読む能力」の得点率が低いという傾向を示しています。

小学校における学年間・領域間の系統については昨年度紹介しましたが、小学校と中学校との系統も大切です。中学校の学習指導要領により、系統を確認し、言語能力を育成する必要があります。

ここでは、内容や事柄を正確に理解する「読む能力」を高めるために、「言語事項」に着目した指導例を紹介します。 → P19~P20

確かな国語の力をはぐくむために

【ポイント1】国語学習への関心や意欲を高める授業改善の工夫

「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域では、話したい・聞きたい・書いて伝えたいという必要感のある学習を展開することが大切であり、ここでは、相手意識や目的意識を明確にし、伝えたい感動体験を意図的に作り出す必要もあります。日常の中で子どもたちが意識しないことに目を向けさせたり、意図的・計画的な活動をすることも効果的です。


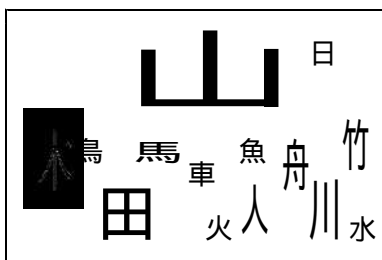



「読むこと」の領域では、文章を読みたいと思わせることと文をすらすら読める習慣を身に付けさせることが基本です。読みたいと思っても、文章を読めなければ意欲は減退してしまいます。追い読み、交代読み、二人読み等、音読の工夫をすること、単語や文節でくくる、漢字にルビをふる等の工夫があります。また、「言葉」の不思議さやおもしろさに着目させた読みを工夫することで、子どもたちの意欲は高まります。

「言語事項」の中で、漢字は比較的取り組みやすい学習ですが、定着させ、活用させるために、漢字ビンゴ、漢字ババ抜き、漢字クイズ、インターネットサイトなどを利用して関心高めるとともに、漢字を覚える必要性を感じさせ、活用させることが、子どもたちの意欲へとつながります。

下の指導案は中学校の実践例ですが、小学校においても、これを参考に取り組んでください。

【視聴覚機器やクイズ形式を取り入れた授業展開例】

「漢字の広場 漢字の成り立ち」(1時間) 中学国語 伝え合う言葉3 教育出版


過程	主な学習活動・教師のかかわり	評価規準・方法
つかむ	学習課題 漢字の成り立ちを知ろう	
と り く む	1 象形文字について学ぶ ・(TP aをOHPで示す) 絵の中に漢字が幾つあるか考えさせる。 TP a  TP b 	<視聴覚機器>の活用 ・進んで漢字を探そうとしている。(観察)
	・(TP bを重ねて確かめた後、TP aをはずす) ・「象形文字」の例をあげる。「目」「心」「人」「雨」「牛」「羊」	<クイズ形式> 漢字のもとになっている物の形を提示する。
	2 指事文字について学ぶ ・形のない、目に見えない事柄はどうすればいいか伝える。 ・(TP をOHPで示し鉛筆で一部分を指し示す) TP  ・「指事文字」の例をあげる。「本」「末」「上」「下」	<クイズ形式> 足し算のように、漢字と漢字の組み合わせを提示して問題にする。 例：人+言=? □+木=?
	3 会意文字と形声文字について学ぶ ・(TP aをOHPで示し、TP bを重ねた後、TP aをはずし、TP  を重ねる) ・「日」と「月」を合わせると「明」になる。 ・「会意文字」の例をあげる。「男」「炎」「鳴」「信」「休」「困」 TP a TP b TP c TP a TP b 	・漢字の構成法の基本が象形と指示であることがわかる。(観察)
	・(赤色で書いたTP aをOHPで示し、音読みを確かめる。その後、青色で書いたTP bを組み合わせると漢字を構成する) ・「形声文字」を提示し、特徴について考えさせる。「晴」「精」	<フラッシュカード> 多くの漢字をカードに記入して紹介する。例：「珈琲」「亜米利加」「仏蘭西」「葡萄牙」「羅馬」
	4 用法からできた漢字や日本で作られた漢字(国字)について学ぶ ・「転注」や「仮借」,「国字」の例をあげる。	・「六書」を理解する。(観察)
	5 「象形文字」「指事文字」「会意文字」「形声文字」を漢字辞典で探す ・机間観察による個別指導	・漢字辞典を使って必要な言葉を探し出している。(観察・ワークシート)
6 どんな漢字があったか交流する ・調べた漢字を発表させる。	<班対抗> グループごとに調べた漢字を交流し、どのくらい漢字を調べることができたか発表し合う。	
7 自己評価を行う ・机間観察による個別指導	・「漢字の成り立ち」について理解できる。(観察・ワークシート)	

【アニメーションを取り入れた関心や意欲を高める学習活動例】

学ぶ楽しさや活動することの楽しさ、読むことの楽しさなど、様々な工夫を通して、国語の楽しさを感じさせることは大切なことです。ここでは、アニメーションを活用した学習活動を紹介します。子どもたちはゲーム感覚で夢中に活動し、「読みたい」という意欲が高まります。また、「わかった」「頑張った」という実感が、自分の考えたことを「伝えたい」という意欲にもつながると考えられます。

文しょうをよく読み、5まいのカードをならべ直そう。

でも たった一口分ですから、じきに食べしまいました。



「クイズみたいでおもしろそう！」

「すると」の「らねこ」は、のっそりと歩き出し、かんづめのえさを、ゆっくり食べ始めました。

「のらねこ」は、草の上で、一口より少し多めに、かんづめの中身を「ほぼして」、後ろに下がりま。

「すると」の「らねこ」は、のっそりと歩き出し、かんづめのえさを、ゆっくり食べ始めました。

アニメーションとは、読書発表の1つの手法です。「アウトをさがせ」「この人いたかな」など、楽しみながら読みを深めていきますが、子供の実態に合わせて工夫することが大切です。

「すると」って、どんな時に使うんだっかなあ。

「のらねこ」三木 卓 作 小学国語 ひろがる言葉3下 教育出版 より

下記の単元が、各学年毎の読書関連教材です。

《読書関連教材の単元名と目標系列》

物語教材		説明文教材
<p>「うみへのながいたび」 やさしい読み物に興味をもって読む。</p>	1年	<p>「ながい かくれて いるのでしょうか」 写真と結びつけながら、説明されている内容を理解する。</p>
<p>「かさこじぞう」 語り口や様子を表す言葉などの特色に気付き、楽しく読み合うとともに、自分の好きな本を絵にかいて紹介する。</p>	2年	<p>「すみれと あり」 動植物の生態に興味をもちながら、順序に気をつけて文章を読む。</p>
<p>「のらねこ」 自ら作品を選び、自分の課題を決め、活動し、自己評価や相互評価を行う。</p>	3年	<p>「めだか」 文章の組み立てに気をつけ、大事なことをおとさずに読む。</p>
<p>「アジアの笑い話」 笑い話のおもしろさを味わいながら読み、笑い与人間の関係について考えるとともに幅広く読書する。</p>	4年	<p>「花を見つける手がかり」 文章の細かい点や段落と段落のつながりに気をつけて文章を読んだり、内容と関連した情報を集めたりすることによって、いろいろな種類の図書をすすんで読む。</p>
<p>「雪わたり」 教科書の作品をきっかけとして、同じ作者や同じテーマの作品に興味をもち、読書発表会をとおして考えを広げたり、深めたりする。</p>	5年	<p>「まんがの方法」 自分の事象に対する見方やとらえ方を広げたり深めたりするために、必要な図書資料を選んで読む。</p>
<p>「きつねの窓」 自分の興味や関心を広げたり深めたりするために、必要な図書を選んで読み、自分の意見や感想、その本の内容を工夫しながら話す。</p>	6年	<p>「ぼくの世界、きみの世界」 自分の考えを広げたり深めたりするために、書かれている内容について筆者の意見をとらえ、自ら考えをもちながら読む。</p>

【ポイント2】他教科等との関連を図った国語の指導

国語科で育てる言語能力は、他教科、道徳及び特別活動、総合的な学習の時間の学習や活動を支える基本となります。

国語科で学習した基礎的・基本的な内容を、教師が他教科等で繰り返し活用させることにより、言語能力はさらに高まります。

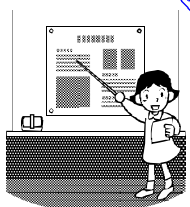
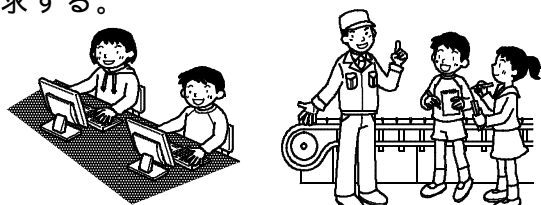
ここでは、「総合的な学習の時間」との関連を図った具体的な例を紹介します。

国語の内容を踏まえながら総合的な学習の時間と関連させた指導計画例

【これからの函館（5年生 テーマ学習：30時間）】

函館の産業について考え、函館の未来について考える。

学 習 活 動	国語科の内容との関連
<p>オリエンテーション（～）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・函館の産業に関する資料から興味・関心を高める。 	<p>読むこと</p> <p>自分のテーマを決定するために各種資料を活用し、必要な情報を読みとる。 （新聞記事・事典・図鑑などから） 「おもしろさのひみつをさがろう」 ひろがる言葉5上 教育出版 より</p>
<p>課題をもつ（～）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・函館市の諸産業について系統立てて考え、学習テーマを決定する。 	<p>読むこと</p> <p>自分の課題を解決するために各種資料を活用し、必要な情報を読みとる。 （企業パンフレット・インターネットから） 「おもしろさのひみつをさがろう」 ひろがる言葉5上 教育出版 より</p> <p>話すこと・聞くこと</p> <p>課題を解決するための意識を持って相手の考えや思いをインタビューする。 「インタビューしよう」 ひろがる言葉3上 教育出版 より</p> <p>書くこと</p> <p>各企業への依頼状・質問状といった手紙を書く。調べたことをまとめた記録にしておく。 「見学したことをもとに」 ひろがる言葉5上 教育出版 より</p>
<p>調べ学習（～）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各企業への質問状、インタビュー、インターネット、各種資料などから知りたいことや調べたいことの課題を追求する。 	<p>書くこと</p> <p>要点を押さえ、まとめた文章で表す。 レイアウトや字数を考えながら記事にまとめる。 「学級新聞をつくろう」 ひろがる言葉4下 教育出版 より 「見学したことをもとに」 ひろがる言葉5上 教育出版 より</p>
<p>整理する・まとめる（～23）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べたことを個人新聞にまとめる。 ・効果的に伝えられるように発表内容を考える。 	<p>話すこと・聞くこと</p> <p>調べたことや自分の考えを資料を提示しながら話す。目的意識をもって友達の発表を聞く。 「どちらを選びますか」 ひろがる言葉5上 教育出版 より</p>
<p>発表・交流（24～28）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題に対する考えや意見を発表、交流し合い、深める。 	
<p>ふりかえる（29～30）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のまとめをする。 	




【ポイント3】 中学校へつながる言語能力の育成を意識した授業づくり

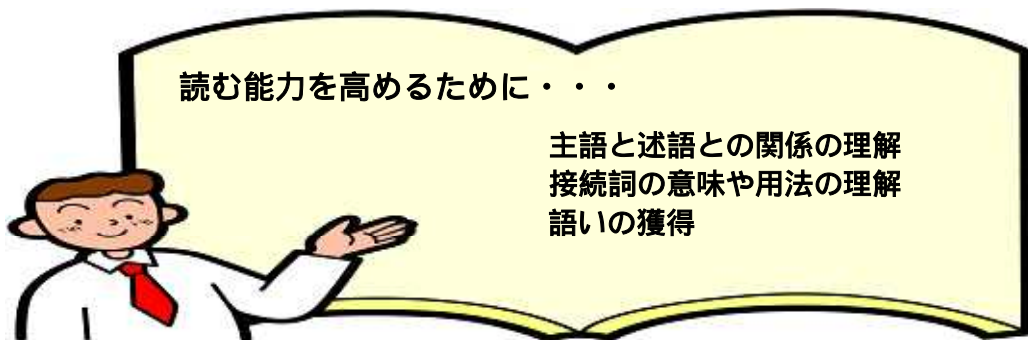
読む能力を高めるためには、「読むこと」の指導の内容や系統を理解することが大切です。高学年における「読むこと」の領域では、「目的に応じ、内容や要旨を把握しながら読む」力を育てることがねらいとなっており、指導のポイントとしては、「主語と述語の関係の理解」「接続詞の意味や用法の理解」「語いの獲得」の3点があげられます。

ここでは、中学校の学習内容との関連を図った指導を紹介します。

読むこと(学習指導要領)の目標及び内容

読むこと		小学校5・6年生	中学校1年生	中学校2・3年生
設問 8-3 文脈に合う語を入れる。 通過率 50%	目 標	目的に応じ、内容や要旨を把握しながら読むことができるようにするとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。	様々な種類の文章を読み内容を的確に理解する能力を高めるとともに、読書に親しみものの見方や考え方を広げようとする態度を育てる。	目的や意図に応じて文章を読み、広い範囲から情報を集め、効果的に活用する能力を付けさせるとともに、読書を生活に役立て自己を向上させようとする態度を育てる。
8-4 要約した内容の理解 通過率 58%	内容 (指導事項)	(1)イ 目的や意図などに応じて、文章の内容を的確に押さえながら要旨をとらえること。	イ 文章の展開に即して内容をとらえ、目的や内容に応じて要約すること。	

3・4年生では内容の「中心」を押さえる学習をしました。



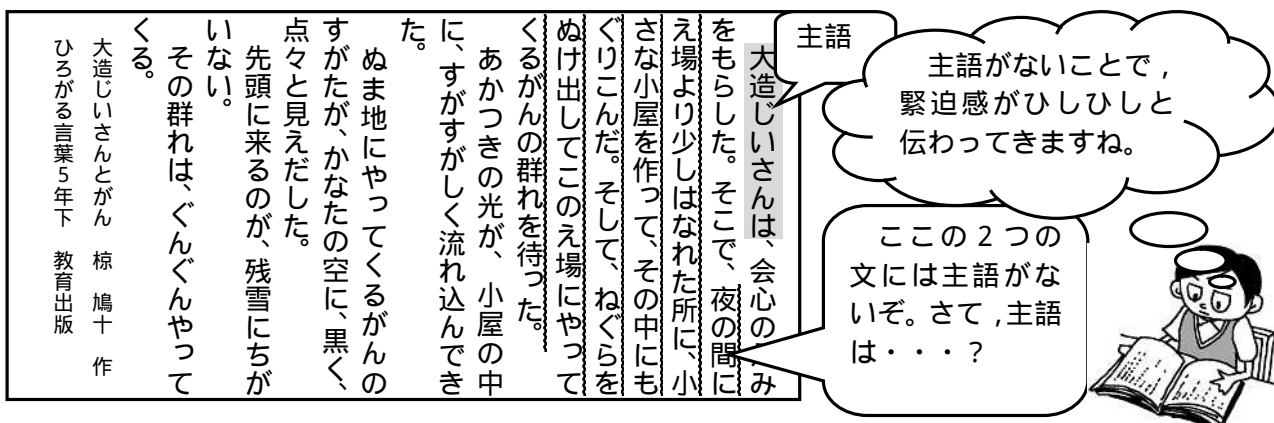
読む能力を高めるために・・・

主語と述語との関係の理解
接続詞の意味や用法の理解
語いの獲得

読む能力を高めるために・・・

主語と述語との関係の理解

文の中における主語と述語の関係に関する指導は、1年生から始まります。1年生から指導を繰り返して、高学年の指導においても、「主述の関係がねじれている文」「主語がはっきりしない文」「主語がはぶかれている文」を取り上げて指導することにより、言語能力が育まれていくと考えられます。



大造じいさんは、会心の
をもらした。そこで、夜の間に
え場より少しはなれた所に、小
さな小屋を作って、その中にも
ぐりこんだ。そして、ねぐら
ぬけ出してこのえ場にやっ
てくるが、群れを待た
あかつきの光が、小屋の中
に、すがすがしく流れ込んで
た。

主語

ぬま地にやってくるが
すがたが、かなたの空に、黒く
点々と見えた。
先頭に来るのが、残雪にちが
いない。
その群れは、ぐんぐんやっ
てくる。

大造じいさんとが
ん 椋 鳩十 作
ひろがる言葉5年下 教育出版

主語がないことで、
緊迫感がひしひしと
伝わってきますね。

ここの2つの
文には主語が
ないぞ。さて、主語
は・・・？

指示語や接続詞の意味や用法の理解

5年下「日本語を考える」は、指示語や接続語に着目して読むことを大切に教材です。指示語や接続語の役割を指導することにより、文相互の関係や段落相互の関係を理解することができるようになります。

文章構成図を活用すると、指示語や接続語に着目しやすくなりますね。内容の理解も容易になります。

日本語を考える 《文章構成図の例》

「このように」は、まとめの時に使う言葉だよ。

「しかし」は、前の文と反対のことを言う時に使うね。

「読むとき」は・・・

接続語、指示語の使われ方
段落相互のつながりを意識させる。
時間の経過をしっかりとおさえる。
文末表現に着目させる。
中心となる語(キーワード)をチェックする。
文章構成図を活用する。

指示語

接続語

留學生のA君は言うように、「すみません」は確かにあやまるときに使う言葉だ。しかし、この例の場面では、母親はあやまっているわけではない。相手の行為について感謝の気持ちを直接表すのが「ありがとう」であって、相手にかけた負たんについて申し訳ないという気持ちで「すみません」となる。
このように、直接的な表現をさけ、自分の立場を述べる言い方が日本語には多い。

日本語を考える 水谷 修 著
ひろがる言葉5年下 教育出版

文末表現

語いの獲得

学力検査の結果では、「光景」という漢字の通過率が26%でした。日常使うことの少ない言葉であるため、通過率が低かったと考えられます。ですから、日常使うことが少ない言葉の定着を図るためには、授業で取り立てて扱うことが必要であると考えられます。

通過率 59%

次の線の言葉を漢字で書きなさい。

1 山の上から見たこうけいを思い出す。
2 クラス対こうで、野球のしあいをする。
3 池のまわりを走る。

教研式標準学力検査CRT 小学五年国語
三期実施版 (平成十八年度三期実施分)
社団法人 日本図書文化協会 制作 より抜粋

通過率 64%

すべて、4年生で学習した漢字です。教科書の巻末には新出漢字とともに、前学年の漢字も掲載されています。新出漢字と合わせて継続的に指導していくことが大切です。

しりとりを完成させることに終始するのではなく、それぞれの熟語の意味を調べたり、熟語を使って単文作りをしたりする活動も取り入れると有効です。

4年生で学習した漢字を中心に、問題を作成すると効果的です。(前学年の学習の振り返り)

国語辞典や漢字辞典を使って、熟語のしりとりを完成させましょう。

森 () 種 () 積 () 雪 ()

漢字の広場 熟語のしりとりに
ひろがる言葉5年上 教育出版

(2) 算数科

算数のポイント

ポイント1

学年間の系統を見通し、
実感を伴った理解を図る
指導の工夫

- ・ 三角形の求積に「底辺」や「高さ」が必要だということを8割の児童が理解していながら、実際の求積では通過率が過半数を下回りました。求積方法や公式の意味理解が十分でないためであろうと考えられます。算数的活動を取り入れながら実感を伴った理解を図ることが大切です。

また、4年生で「面積」の学習が十分理解されていないこともつまずきの原因と考えられます。面積をはじめ「量」の指導を学年間の系統を見通して行う必要があります。

求積問題を例にとり、つまずきを明らかにしながら系統を意識した「量」の指導のあり方を紹介します。

→ P 2 2 ~ P 2 3

ポイント2

問題の意味を数学的に
理解させ、解決の見通しを
もたせるための工夫

- ・ 問題を読んでも意味を理解できなかつたり、解決の見通しがもてない児童が多く見られました。文章題の通過率は低く、問題によっては無答率が20%にもなる問題もあります。何をしたいのか、解決の見通しが全くもてなかつたのではないかと考えられます。

問題を数学的に読み取り、理解させ、問題解決の見通しをもたせることが必要です。誤答率の高かつた問題を取り上げ、子どもにつまずきに応じた支援の方法について紹介します。

→ P 2 4 ~ P 2 5

ポイント3

算数から数学に
移行するための指導の重点

- ・ 調査結果から函館市の算数科教育において、「数学的な考え方」に課題があることがわかりました。「数学的な考え方」は中学校においても重要な観点です。

数学的な概念や数学的な感覚は、系統的な指導により育成されるものであり、小学校算数科の学習では、中学校数学科の基礎としての重要性を踏まえ、指導の充実を図ることが大切です。

どのようなことを意識しながら算数の授業に取り組んでいけば、数学へのスムーズな移行が図れるのか、小・中学校の学習内容の関連を示しながら、紹介します。

→ P 2 6 ~ P 2 7

確かな算数の力をはぐくむために

【ポイント1】学年間の系統を見通し、実感を伴った理解を図る指導の工夫

「平行四辺形と三角形の面積」では、底辺と高さがわかれば面積を求めることができることを理解していても、実際に面積を求めることができない児童が多いことがわかりました。

28) 次の三角形や平行四辺形の面積を求めるとき、必要となる長さは、それぞれ、どこどこですか。ア～エの中から選び、記号で答えなさい。

1)

2)

29) 次の三角形や平行四辺形の面積を求めなさい。答えは、それぞれ下のア～カの中から選び、記号で答えなさい。
(1目もりは1cmとします。)

ア	4.5cm ²	イ	6cm ²	ウ	9cm ²
エ	10cm ²	オ	12cm ²	カ	20cm ²

設問28, 29, P.2320, P.2419は、「教研式標準学力検査CRT - 小学校5年算数3学期実施版 社団法人日本図書文化協会 制作」より抜粋

通過率 28) 1)... 89% 2)... 83% 29) 1)... 45% 2)... 36% 3)... 66%

<つまずきの原因>

- 求積方法や公式を理解していない。
- 4年生で学習した「長方形と正方形の面積」を十分に理解できていない。
- 三角形や四角形の性質等を理解していない。

<実際の指導では>

[工夫1] 学年間の系統を見通す

指導する前に、教科書等で「面積」に関する学年ごとの指導内容や図形領域との関連を確認する。そして、事前テスト等で4年生までの学習内容の定着を調べ、不十分な点についてはそれを補充する内容を指導計画に位置づけたり、個別指導ができるようにしておく。

[工夫2] 実感を伴って理解できるようにする

平行四辺形では、等積変形だけでなく単位正方形の敷き詰めによる求積方法も大切に扱う。また、例えば12cm²の平行四辺形や三角形などを、実際に作図する活動等を取り入れる。

[工夫3] 数学的な考え方と活用する力を伸ばす

多様な解決方法を交流する場面を大切にし、自分の考えを表現したり他の表現を読み取ったりして、筋道立てて考える力を伸ばす。また、子ども自身が公式をつくり出す活動を重視し、公式を活用できるようにする。

「面積」の指導

[第4学年]

- 面積の概念と面積の求め方
- 面積の単位「平方センチメートル」「平方メートル」「平方メートル」とその単位関係
- 長方形、正方形の面積の求め方と公式
- 面積の量感

[第5学年]

- 平行四辺形、三角形の面積と公式
- 台形などの面積の求め方
- 面積の概測(方眼)

[第6学年]

- 円の面積の求め方と公式
- 面積の概測(形に着目)

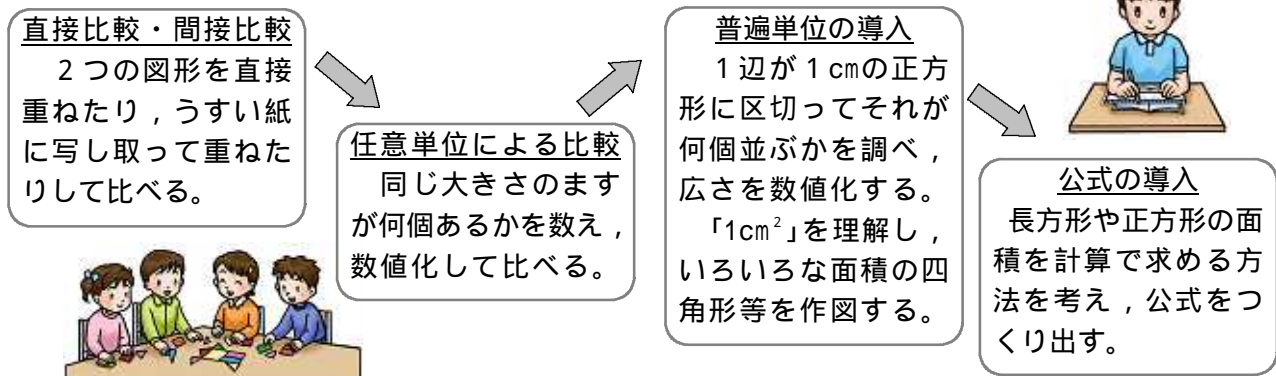
単位正方形の敷き詰めによる求積方法

< 4年生では > 公式をつくり出すまでの指導を充実させる

初めて面積を学習するこの学年では、広さの感覚から面積の概念へと抽象化を進めることが大切です。つまり、長さやかさ、重さなどと同様に、面積も単位を定めることにより、それを基に測定した数で表すことや、逆に、計器を用いて直接数値化するのではなく、図形を構成する辺の長さから計算によってその測定値を求めるなどの違いを理解できるようにします。

そのためには、公式をつくり出す前に、面積を比較・測定する算数的活動を積極的に取り入れることが大切です。また、ゲーム的な要素を取り入れるなどして、目的をもって楽しく活動できるような工夫も重要です。

公式をつくり出すまでの活動を大切にした指導例



< 低学年では > 「量と測定」領域では、「量の指導の4段階」を大切にする

子どもが初めて「量と測定」領域に出会うのは「長さ」の学習で、第3学年まで続けられます。1年生にとっては初めての連続量でもあり、「1つ、2つ、…」と数えられない量であることに気づかせることも大切です。

特に第1、2学年では、直接比較や間接比較、任意単位や普遍単位による比較・測定、いわゆる「量の指導の4段階」を大切に、算数的活動を積極的に取り入れる必要があります。こうした活動の中で、子どもたちは長さの概念や測定のしかたを理解し、測定する技能や量感を身に付けていきます。

そして、低学年で身に付けたことが、第3学年の「かさ」や「重さ」、第4学年の「角の大きさ」や「面積」の学習に生きてきます。

「長さ」の指導

[第1学年]

- ・長さの概念（長い、短い、同じ長さ）
- ・長さの測定の基礎（直接比較、間接比較、初歩的な任意単位による比較）

[第2学年]

- ・任意単位による長さの比較
- ・長さの測定（ものさし）
- ・長さの単位「センチメートル」「ミリメートル」「メートル」と単位関係
- ・長さの量感

[第3学年]

- ・長さの測定（巻き尺）
- ・長さの単位「キロメートル」と単位関係
- ・長さの量感

量の指導の4段階

直接比較

移動できる2つの物の端をそろえるなどして大きさを比較する。

間接比較

移動できない物同士の大きさを、移動できる別の物を使って比較する。

任意単位による比較

比べたい物AとBと同じ種類の量Cを使って、A、BがCのいくつ分かを調べ比較する。

普遍単位による比較

世界共通の単位を用いて比較する。
g kg ml mL cm


【ポイント2】問題の意味を数学的に理解させ、解決の見通しをもたせるための工夫
 18年度の学力検査の結果を分析したところ、特定の問題において通過率が低いことがわかりました。その中でも、特に問題の意味をよく理解できていないために誤答や無答につながってしまったと考えられる問題を取り上げ、子どものつまずきに応じた支援の工夫について紹介します。

誤答率の高い問題例

20 ともさんとゆきえさんが走りばとびをしています。ともさんは3.5m、ゆきえさんは2.8mとびました。ゆきえさんの記録は、ともさんの記録の何倍ですか。

✓ア 3.5×2.8
 ✓イ 2.8×3.5
 ✓ウ $3.5 \div 2.8$
 エ $2.8 \div 3.5$

通過率... 39%
 誤答率... 57%
 無答率... 4%



つまずきの原因

題意が理解できず、見通しをもつことができない。
 「何倍か」は除法で求められるということを理解していない。
 比較量と基準量が把握できないために、正しい立式につながらない。

支援の工夫の例

題意を確実にとらえさせる。

どのような問題場面か理解させる。
 求答事項、既知事項の順に捉えさせる。

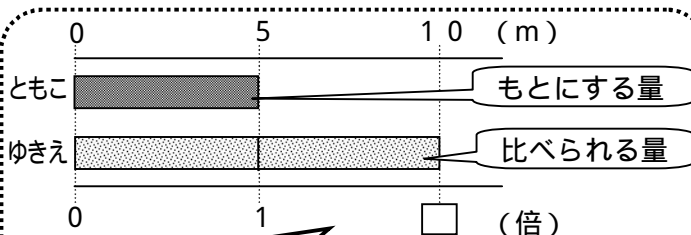
ともさんとゆきえさんが走りばとびをしています。ともさんは3.5m、ゆきえさんは2.8mとびました。ゆきえさんの記録は、ともさんの記録の何倍ですか。

求められていることは何ですか？また、今分かっていることは何ですか？



問題文に線を引いたり、でかんだりすると分かりやすいね！

数値を簡単な整数に置きかえ、演算決定に導く。



$$\frac{10}{5} = 2 \text{ (倍)}$$

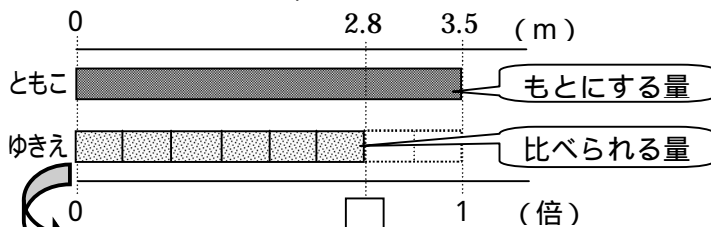
$\frac{\text{比べられる量}}{\text{もとにする量}} = \text{何倍}$

言葉の式にできたら、整数の場合と同じように考えてみよう。



正しい立式に導く。

図や数直線を使い、視覚的に比較量と基準量をとらえさせる。



$$\frac{\text{比べられる量}}{\text{もとにする量}}$$

$$2.8 \div 3.5$$



ともさんがもとなるので「1」、ゆきえさんが「比べられる量」になっていますね。

図にするとわかりやすいね！今度から自分でもかいてみるよ！

を使って問題文から式を導き出させる。

ゆきえさんの記録は、ともさんの記録の何倍ですか。

$$2.8 = 3.5 \times \square$$

$$2.8 \div 3.5$$

問題文の中に式がかかされているタイプの問題です。



の答えを出すにはわり算になるね！

無答率の高い問題例

19 1 のガソリンで14 km走る自動車があります。2.3 では何km走ることができますか。

通率...50%
誤答率...30%
無答率...20%

つまずきの原因

題意が理解できず、演算決定ができない。
整数の場合と違い、答えの見積もりができず、
解決の見通しをもつことができない。
乗数が小数のため、数量の関係把握がしにくい。



支援の工夫の例

題意を確実にとらえさせる。

どのような問題場面か理解させる。
求答事項、既知事項の順に捉えさせる。

1 のガソリンで14 km走る自動車があります。2.3 では、何km走ることができますか。

数値を簡単な整数に置きかえ、立式に導く。

$$2 \dots 14 (\text{km}) \times 2 (\quad) = 28 (\text{km})$$

$$3 \dots 14 (\text{km}) \times 3 (\quad) = 42 (\text{km})$$

$$1 \text{ あたりの距離} \times \text{ガソリンの量} = \text{走る距離}$$

整数の場合と同じように考えていいんだね。



図や表・数直線等にし、答えの見積もりをさせる。

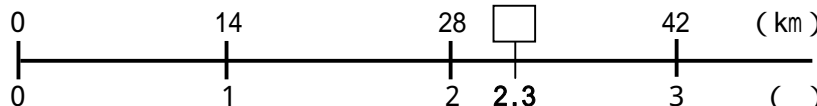
表にして答えの見積もりをさせる。

ガソリン ()	1	2	2.3	3
走る距離 (km)	14	28	?	42

答えは30 kmとちょっとかなあ...?では、どんな式になるのかな?



数直線に表して答えの見積もりをさせる。



数直線を見る限り、わり算はなさそうだね。じゃあ、かけ算かな?

日常の学習指導においては、子どものつまずきの原因を的確に捉えるとともに、様々な1人1人の実態に応じて支援することが大切です。そして、例に示したような支援を積み重ねていくことで、問題を解決するために必要な工夫を子ども自身で考え、自力で問題を解決したり、つまずきを乗り越えたりすることができるようになっていきます。

また、特定の問題を取り上げる形で問題解決の見通しをもつための支援のあり方について例を示しましたが、「なぜ子どもがつまずくのか?」という原因について考えたとき、以下の2つが考えられます。

「自力解決」の機会を与えられないとつまずく

つまずきを起こさせまいとして細かにお膳立てをし、教師が一方向的に教え込む授業では、子どもの学習は受身になり、考えることが苦手な子どもを育てることになります。日常の実践においては、子どもの自力解決に委ねる問題解決的な学習の場を意図的、計画的に設定していくことが大切です。

「既習事項」の理解と定着が不足するとつまずく

きまり、用語の意味、公式、計算の仕方などの理解が不十分で曖昧なまま記憶されると、つまずきの原因になります。どのように考えるとよいのかという原理を理解した上で知識としてまとめるとともに、実際に問題解決の場で活用しながら維持し、さらに理解を深めていくことが重要です。

指導者としては、個に応じた支援のあり方のみならず、問題解決的な学習の積み重ねを心掛けるなど、日常の学習スタイルに関しても留意しながら指導に当たることが大切です。

【ポイント3】 算数から数学に移行するための指導の重点

算数から数学に移行するための指導の重点，すなわち 数学の土台作り として，算数の授業においてどのようなことを意識しながら取り組んでいけばよいのかについて紹介します。

数学的な見方・考え方に重点をおいた算数的活動

今回の教研式標準学力検査（CRT）の観点別検査結果は次の通りです。

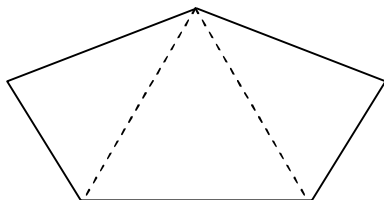
	関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての表現・処理	数量や図形についての知識・理解
得点率	79.2	54.4	67.5	75.8

上の表からもわかるように，「数学的な考え方」の得点率は他の観点と比べて低い結果であることがわかります。「数学的な考え方」は中学校においても重要な観点であり，この点からも数学的な見方・考え方に重点をおいた算数的活動を取り入れていくことが大切だと言えます。

数学的な見方・考え方に重点をおいた算数的活動例

内角の和の指導

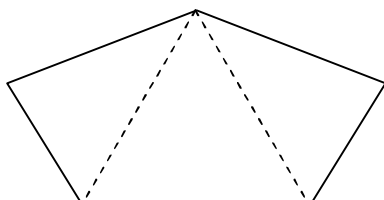
小学校5年生



多角形を三角形に分け，三角形の個数に 180° をかけると内角の和が求められることを学習する。

	四角形	五角形	六角形	七角形	...
角の大きさの和	360°	540°			

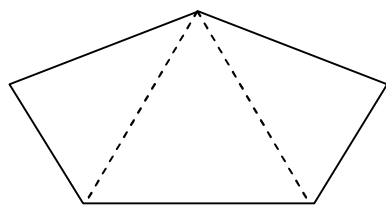
中学校2年生



表をもとに・・・
 ↓
 三角形の数は（頂点の数 - 2）である。
 一般化して，多角形の頂点の数を n として
 ↓
 $180^\circ \times (n - 2)$
 という式を導き出すところまで学習する。

多角形	四角形	五角形	六角形	七角形	...
頂点の数	4	5	6		
対角線の数	1	2	3		
三角形の数	2	3	4		
角の和	360°	540°			

そこで・・・



	四角形	五角形	六角形	七角形	・・・
角の大きさの和	360°	540°			

小学校5年生におけるこの学習の最後に・・・

規則性をさがす。

例)・180°ずつふえている。

・三角形の数は頂点の数より
2小さい など

角の数をふやす。

例)十角形では？

十二角形では？

などの算数的活動を取り入れる。

問題の意味を数学的に理解させ、解決の見通しをもたせるための指導

今回の教研式標準学力検査（CRT）を分析すると

無答率・誤答率が高い 文章問題（自分で解決の見通しをもつ問題）

となっていることがわかりました。

自分で解決の見通しをもつ力は、数学的な見方・考え方に大きくかかわる力であり、問題の意味を数学的に理解させ、解決の見通しをもたせるための指導は、と同様の理由で数学の土台づくりとして大切なものであると言えます。詳しくは【ポイント2】をご覧ください。

既習事項をもとに、類推的に考える活動を取り入れる

数学的な見方・考え方を深めるには、類推（類比）的に考える活動を重視することが大切です。これは新しい課題に対して、既習内容の考え方を当てはめ、それを生かして解決の方策を導き出していく考え方です。この方法は、数学的な見方・考え方を伸ばすだけでなく、学習した内容から新たな方法を作り出すことができるという数学の有用性を実感するうえでも有効です。

類推（類比）の活用例

小数の指導

小数×整数

類推

整数×小数

類推

小数×小数

計算の仕方をすぐに示すのではなく、前の学習内容を振り返らせるようにし、それと同じ発想と手順で解決の道筋を考えさせるとよいでしょう。

まとめ

教研式標準学力検査（CRT）の観点別検査結果、及び「数学的な考え方」は中学校においても重要であるという点から、数学の土台作りとして数学的な見方・考え方を養うことは欠かせません。そこで、ここまで紹介した3点が土台づくりのポイントとなります。

小学校における数学の土台づくりのポイント

数学的な見方・考え方に重点をおくために、問題解決の過程を重視する算
数的活動を取り入れる

問題の意味理解を深め、解決の見通しをもつ指導を取り入れる

既習事項をもとに類推的に考える活動を取り入れる

『確かな学力』をはぐくむために

今年度の子どもの学習に関する意識調査の結果から、子どもの家庭学習の時間や読書の時間が増えていることがわかりました。

今後さらに『確かな学力』をはぐくむために、学習への関心意欲の高まりや家庭における学習環境づくりの工夫などが、大切になると考えられます。学校では、子どもが「もっと知りたい」「もっとやってみたい」と思う授業や教材の工夫を進めるとともに、家庭では、子どもが学校でしっかりと学習に臨める工夫、特に朝食の摂取や子どもへの声かけなど、学校と家庭がより一層連携を深めることが必要です。

学習環境の充実

学校での取り組み

《関心や意欲を高める授業づくり》

- ・ 「できる」「わかる」「ほめられる」体験が学習意欲を高めます。
- ・ 国語では、言語活動例を取り入れるなど、楽しい授業の工夫をすることで意欲が高まります。

《家庭学習へとつなげる学習指導の工夫》

- ・ 「やってみたい」「おもしろそうだ」と思う学習は、家庭学習の取り組みへとつながります。



家庭への働きかけ

《学習環境づくりの工夫》

- ・ 朝食をしっかりと食べることで、集中力が高まり、精神的にも安定することから、学習意欲が高まります。
- ・ 励ましや賞賛などの言葉かけは、子どもの学習への意欲を高めます。

《家庭学習の工夫》

- ・ 「テスト」や「宿題」への取り組みなどで家庭学習の時間が増えていることから、今後は「興味のある学習」へも取り組めることが大切になります。

読書活動

《読書指導の工夫》

- ・ 読書の場の設定の工夫
- ・ 内容をしっかり読み取る力を伸ばす工夫
- ・ ジャンルごとの読み方の違いの指導

《読む目的をもたせる工夫》

- ・ アニメーションなどで本を読みたくなるような工夫
- ・ 知識の獲得のためなど、必然性をもたせる工夫
- ・ 楽しむ読書の推進



6 今後に向けて

(1) 成果と課題

成果について

平成15年度から4年間、函館市における小学校第5学年児童の国語科・算数科の学力の定着状況や誤答傾向等の把握及び、比較検討することができた。

平成15年度から4年間、函館市における小学校第5学年児童に対して「学習意識調査」を実施したことにより、学校や家庭における学習に対する意識や意欲、取組状況等についてより確かな実態を把握することができた。

4年間の学力検査及び学習意識調査の集計、分析の結果を通して、函館市における学習指導上の課題や改善の方向性がより明確になった。

4年間の学習状況の実態調査により、各学校における確かな学力の向上に向けた成果や課題が明らかになり、授業改善や工夫などの取組が充実してきた。

各学校においては、4年間の函館市における学習状況や自校における学習状況の実態について、校内研修等での話し合いを進め、学力の向上に向けた取組が充実してきた。

課題について

各学校では、学力の向上に向けた、組織体制などを確立し、課題に対する具体的な方法を講じて、自校の児童生徒の学力向上に取り組む必要がある。

4年間の学習状況調査の分析データから、学力の定着や学習意識に関する状況を把握するために、今後ますます、複数学年や中学校での学習状況の実態調査が必要である。

確かな学力の向上に向けては、学びの機会を充実し、学ぶ習慣を身に付ける取組を進めるなど、家庭との一層の連携を図る必要がある。

各学校では、自校の学力分析を行い、学力の定着状況や誤答傾向を把握するとともに、系統性をふまえた指導計画の見直しを行う必要がある。

(2) 今後に向けた取組の必要性

函館市では、「確かな学力」の向上のため、平成15年度から4年間、教研式標準学力検査(CRT)、「学習意識調査」を行い、全市の学習状況を把握し、学習指導上の課題を明らかにするとともに、学習指導の工夫・改善の在り方について、調査・研究を進めてきた。

この度、ここに第4回の学習状況調査実施報告書が完成し、昨年度までの報告書を踏まえ、さらに一步進んだ本市における学習指導の工夫・改善の方向性について提言することができた。

今後も、全市規模での学習状況調査を継続することにより、「確かな学力」をはぐくむ学習指導の充実・改善につながるものと確信している。

最後に、本市における「確かな学力」の向上を目指す取組の充実にかかわり、本委員会としての今後に向けた期待を次にまとめる。

- * 全市的な学力検査の継続的实施と、「確かな学力」向上のためのプロジェクト推進委員会の常設、児童生徒の学習状況の分析と確かな学力向上のための取組に関する検討・協議
- * 各教科や各領域等における学習内容の定着状況や達成結果を踏まえ、つまづきが生じている学年の把握、及び全学年での学力検査の実施を見据えた対象教科、実施方法、調査の分析等に関する継続的な検討・協議
- * 中学校での学力検査の実施と結果分析、中学校における学習指導の改善の視点の明確化
- * 確かな学力の向上を目指す授業改善に係わる小学校と中学校の連携の在り方についての検討・協議
- * 市内各学校における校内研修や教育研究の推進、教育研究団体との連携等に係わる検討・協議
- * 本報告書で明らかにされた重点的な指導が必要な領域・単元の、系統性をふまえた指導計画の見直しに係わる検討・協議

【参考文献】

- 小学校学習指導要領 文部科学省
中学校学習指導要領 文部科学省
小学校学習指導要領解説 国語編 文部科学省
中学校学習指導要領解説 - 国語編 - 文部科学省
小学校学習指導要領解説 算数編 文部科学省
中学校学習指導要領解説 - 算数編 - 文部科学省
中学国語 伝え合う言葉3 教育出版
平成19年度小・中学校教育課程改善の手引
「生きる力」をはぐくむ学校教育の検証と改善
北海道教育庁学校教育局義務教育課
函館市小学校算数教育研究会 平成18年度研究実践集録
算数教育指導用語辞典 第三版（日本数学教育学会編著（株）教育出版）

「確かな学力」向上のためのプロジェクト推進委員会

〔国語部会〕

函館市立湯川小学校	教頭	宮	越	忍
函館市立東山小学校	教諭	中	村	一美
函館市立深堀小学校	教諭	能	登	雅宏
函館市立金堀小学校	教諭	五	島	博司
函館市立日吉ヶ丘小学校	教諭	田	湯	義浩
函館市立鱒川中学校	教諭	清	水	修子

〔算数部会〕

函館市立本通小学校	教頭	秋	山	隆行
函館市立昭和小学校	教諭	酒	井	光史
函館市立中央小学校	教諭	奥	崎	初恵
函館市立湯川小学校	教諭	日	景	伸介
函館市立中部小学校	教諭	清	水	布美子
函館市立本通中学校	教諭	立	花	穰

平成19年度 学習状況調査実施報告書 「確かな学力をはぐくむ学習指導の改善のために」

発行者 函館市教育委員会
函館市東雲町4番13号
電話(0138)21-3557
発行日 平成19年 12月 26日

1 調査の概要

(1) 調査の目的

函館市内の小学生を対象に、全市的な規模で学習状況の調査を行い、学習指導要領における教科の目標や内容の実現状況を把握する。学習指導上の課題を明らかにするとともに、各学校が児童一人一人に確かな学力をはぐくむ学習指導の改善に活用できるよう、函館市全体の結果と学習指導の改善の方向性を示した報告書の作成を通して、具体的かつ実践的な提言を行い、確かな学力の向上に資する。

(2) 調査の内容

教科の調査問題については、教研式標準学力検査（CRT）を活用し、その結果の集計・分析から、観点別得点率・領域別問題通過率等を明らかにし、函館市内児童の学力の状況を把握する。

アンケート形式で設問を構成した「学習意識調査」を実施し、児童一人一人の学力の背景となる学習に対する意識や家庭での学習の状況等について、実態を把握する。

児童の学力の実態を総合的に分析し、今後に向けた各学校の取組の資料として活用できるよう、誤答傾向やその原因、問題点や学習指導に関する改善の視点等を明らかにした。

年間指導計画や教科書の内容配列等により、調査問題に履修していない内容が含まれる場合は、それを回答させないこととする。

(3) 調査対象学年及び教科等

調査対象学年	-----	小学校第5学年
調査問題	-----	教研式標準学力検査（CRT）
調査教科	-----	「国語」「算数」
調査時期	-----	平成18年11月～平成19年2月
学習意識調査	-----	小学校第5学年（平成19年1月～2月実施）

(4) 調査対象学校数及び児童数

標準学力検査（「国語」「算数」）	函館市小学校	48校
	第5学年（児童数	2,241名）
学習意識調査	函館市全小学校	48校
	第5学年（児童数	2,215名）

(5) 調査実施方法等

原則として1教科当たりの調査時間は、45分とする。

「学習意識調査」の調査時間は、各学校の実態に応じて実施する。

各学校における検査実施後(「国語」「算数」)の採点、集計等については、各学校ごとにコンピュータ診断を実施する。

函館市全体の集計、分析等については、函館市教育委員会(「確かな学力」向上のためのプロジェクト推進委員会)が行う。

(6) 調査における留意事項

本調査においては、「領域別」「観点別」「得点率」「通過率」の用語について、次のような意味づけを行い、使用している。

「領域別」

国語科においては、小学校学習指導要領「国語」に示されている「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」、「C読むこと」(検査項目により〔言語事項〕も位置付ける)を表す。

算数科においては、小学校学習指導要領「算数」に示されている「数と計算」、「量と測定」、「図形」、「数量関係」を表す。

「観点別」

国語科においては、小学校児童指導要録に示されている観点別学習状況に基づき、「国語への関心・意欲・態度」、「話す・聞く能力」、「書く能力」、「読む能力」、「言語についての知識・理解・技能」を表す。

算数科においては、小学校児童指導要録に示されている観点別学習状況に基づき、「算数への関心・意欲・態度」、「数学的な考え方」、「数量や図形についての表現・処理」、「数量や図形についての知識・理解」を表す。

「得点率」

教研式標準学力検査(CRT)における満点に対する得点の比率を表す。

「通過率」

問題ごとの正答者人数を解答者の総人数で割った数値である。

各問題に対応して通過率を言うときは、 $\text{正答人数} \div \text{総人数} \times 100$ で表す。

2 調査結果の概要

(1) 国語科

観点別得点率

観 点	得 点 率			
	全 体			
	15年度	16年度	17年度	18年度
国語への関心・意欲・態度	78.5	77.5	79.5	80.0
話す・聞く能力	79.4	79.4	79.3	79.8
書く能力	74.9	75.2	76.7	76.6
読む能力	69.2	69.2	69.4	69.0
言語についての知識・理解・技能	64.4	65.8	68.7	68.3

領域別得点率

領 域	得 点 率			
	全 体			
	15年度	16年度	17年度	18年度
話すこと・聞くこと	79.4	79.4	79.3	79.8
書くこと	74.9	75.2	76.7	76.6
読むこと	69.2	69.2	69.4	69.0
言語事項	64.4	65.8	68.7	68.3

(2) 算数科

観点別得点率

観 点	得 点 率			
	全 体			
	15年度	16年度	17年度	18年度
算数への関心・意欲・態度	80.1	79.4	79.4	79.2
数学的な考え方	48.3	50.0	54.5	54.4
数量や図形についての表現・処理	68.4	69.0	68.3	67.5
数量や図形についての知識・理解	75.7	76.4	76.6	75.8

領域別得点率

領 域	得 点 率			
	全 体			
	15年度	16年度	17年度	18年度
数と計算	68.1	69.0	67.4	66.3
量と測定	57.6	59.2	57.8	58.5
図形	66.0	66.5	72.8	72.5
数量関係	57.5	58.2	58.5	59.1

3 調査結果の分析

(1) 国語科

領域別問題通過率(平成17・18年度)

領 域		得点率%		通過率が高かった問題		通過率が低かった問題	
		17年度	18年度	通過率%		通過率%	
		17年度	18年度	17	18	17	18
話すこと・聞くこと	1 話の中心を考えた ながら聞くこと	82.5	82.5	テーマの聞き取り 内容の聞き取り	96 96 96 96		
	2 意図が伝わる工夫をして話すこと	72.1	73.5	スピーチの準備	89 90		
	3 話す相手に応じて適切に話すこと	79.4	78.7	適切な言葉遣いで話す	80 80		
	4 話し合いをするときに大切なこと	82.7	83.4	話し合いで大切なこと	95 95		
書くこと	5 表現や構成を工夫して書くこと	62.6	63.9			段落の構成を考えて書く (事実と考え)	39 41
	6 適切な内容の事柄を選び書くこと	82.3	82.0	報告書に書く内容	90 90		
	7 語句の正しい使い方を 知ること	91.0	88.9	語句の使い方「決して」 語句の使い方「たぶん」	92 90 92 90		
読むこと	8 要約しながら内容を 読み取ること	68.6	67.9			文脈に合う語「昼間」 (対比)	50 50
	9 文章の表現や叙述に 注意し読むこと	70.2	70.1				
言語事項	10 漢字の様々な特徴を 理解すること	58.3	58.2	同音漢字「実験」	90 89	漢字の由来「形声文字」 漢字の由来「象形文字」	21 18 46 44
	11 言葉の性質と適切な 仮名遣い	78.6	78.9	単語の類別・動詞	94 94	単語の類別「形容詞」	45 45
	12 漢字を正しく覚えて 使うこと	69.8	68.8	漢字の読み「任せる」 漢字の読み「貿易」	92 91 91 91	漢字の書き「光景」	21 26

検査結果における個々の問題の概要およびその通過率

評価の観点	大問	大問の内容	小問	小問の内容	小領域	17年度	18年度	各校の 通過率	誤答率	無答率
						函館市の 通過率	函館市の 通過率			
関心・意欲・態度	2	話すことについて、関心・意欲・態度をみる。		話すことの関心・意欲・態度	関心・意欲・態度については、通過率は出されていないので、3ページの『観点別得点率』を参照する。					
	6	書くことについて、関心・意欲・態度をみる。		書くことの関心・意欲・態度						
	9	図書館の利用について、関心・意欲・態度をみる。		図書館への関心・意欲・態度						
	11	漢字の学習について、関心・意欲・態度をみる。		漢字への関心・意欲・態度						
	17	書くことについて、関心・意欲・態度をみる。		書くことの関心・意欲・態度						
	19	読むことについて、関心・意欲・態度をみる。		読むことの関心・意欲・態度						
話す・聞く能力	1	話し手の意図を考えながら、大切な部分を聞き取ることが出来るかどうかをみる問題。	1	テーマの聞き取り	1 話の中心を考えながら聞くこと	96	96	4	0	
			2	イ 内容の聞き取り		96	96	4	0	
			エ	内容の聞き取り		59	58	42	0	
			3	まとめの聞き取り		79	81	19	0	
	7	自分の意図が伝わるような工夫をし、適切な態度でスピーチをすることができるかどうかをみる問題。	1	ア スピーチの準備	2 意図が伝わる工夫をして話すこと	89	90	10	0	
			オ	スピーチの準備		75	77	23	0	
			2	イ スピーチするときの注意		58	59	41	0	
			オ	スピーチするときの注意		66	69	31	0	
	12	話す相手に応じて、適切な言葉遣いをする事ができるかをみる問題。	ウ	適切な言葉遣いで話す	3 話す相手に応じて適切に話すこと	80	80	20	0	
			オ	適切な言葉遣いで話す		79	78	22	1	
	15	適切な態度で話し合いをすることができるかどうかをみる問題。	1	発言内容の理解	4 話し合いをするときに大切なこと	78	80	19	1	
			2	発言内容の理解		83	85	14	1	
			3	司会者の役割の理解		84	84	14	1	
			4	ア 話し合いで大切なこと		81	83	15	2	
			エ	話し合いで大切なこと		95	95	3	2	
キ	話し合いで大切なこと	77	75	23	2					
3	3	表現の効果を考えながら、構成を工夫して書くことができるかどうかをみる問題。	1	1 段落の構成を考えて書く	5 表現や構成を工夫して書くこと	71	72	27	1	
			2	2 段落の構成を考えて書く		39	41	58	1	
			3	3 段落の構成を考えて書く		62	63	35	1	
			2	ア 表現の工夫・比喻		77	78	21	1	
			エ	表現の工夫・倒置		63	65	34	1	
	16	目的や意図に応じて、書く事柄を整理して書くことができるかどうかをみる問題。	1	ア 依頼の手紙に必要なこと	6 適切な内容や事柄を選び書くこと	76	76	22	2	
			エ	依頼の手紙に必要なこと		86	85	13	2	
			キ	依頼の手紙に必要なこと		84	84	14	2	
			2	カードに書く内容		71	69	29	2	
			3	ア 報告書に書く内容		90	90	7	3	
ウ	報告書に書く内容	88	89	9	3					
21	文の照応に注意して、適切な語句を使って書くことができるかどうかをみる問題。	1	語句の使い方・たぶん	7 語句の正しい使い方を知ること	92	90	3	7		
		2	語句の使い方・どうか		89	87	5	8		
		3	語句の使い方・決して		92	90	2	8		

各校の通過率の欄には、それぞれの学校で自校の通過率を記入し、函館市の通過率と比較しながら、今後の指導に役立ててください。

↑は昨年度と比較して急激な伸び率の問題、▲は過去4年間で徐々に伸びている問題です。

評価の観点	大問	大問の内容	小問	小問の内容	小領域	17年度	18年度	各校の 通過率	誤答率	無答率
						函館市の 通過率	函館市の 通過率			
4 読む能力	8	事実と意見の関係をおさえながら文章の要旨をとらえ、必要な図書を選んで読むことができるかどうかをみる問題。	1	適語補充・これには	8 要約しながら内容を 읽 ること	70	70		30	0
			2	2 段落の関係の読み取り		73	74	24	3	
			3	3 段落の関係の読み取り		68	66	31	3	
			3	文脈に合う語・昼間		50	50	49	1	
			4	イ 要約した内容の理解		58	58	41	2	
			オ	要約した内容の理解		65	62	36	2	
			カ	要約した内容の理解		81	82	16	2	
			5	段落の内容の読み取り		70	68	31	1	
			6	関連する図書の選択		87	86	13	1	
	18	登場人物や場面の描写に注意して、叙述に即して読むことができるかどうかをみる問題。	1	場面の様子の読み取り	9 文章の表現や叙述に注意して 읽	79	80	17	4	
			2	語の意味・やれやれ		72	73	23	4	
			3	指示語の内容理解		63	63	32	5	
			4	心情の読み取り		74	72	22	6	
			5	ウ 詳しい内容の読み取り		70	71	22	7	
			エ	詳しい内容の読み取り		67	66	27	7	
			オ	詳しい内容の読み取り		69	68	25	7	
	5 言語についての知識・理解・技能	4	同音異義語の漢字を適切に使い分けることができるかどうかをみる問題。	イ	同音漢字・仏像	10 漢字の様々な特徴を理解すること	72	71	28	0
				エ	同音漢字・実験		90	89	11	0
5		適切な仮名遣いを理解しているかどうかをみる問題。	ウ	適切な仮名遣いの理解	11 言葉の性質と適切な仮名遣い	83	83	17	0	
			エ	適切な仮名遣いの理解		86	87	13	0	
10		漢字を正しく 읽 ることができるかどうかをみる問題。(任せる・設備・貿易)	1	漢字の 읽 ・任せる	12 漢字を正しく覚えて使うこと	92	91	7	2	
			2	漢字の 읽 ・設備		84	83	11	6	
			3	漢字の 읽 ・貿易		91	91	5	4	
13		漢字の由来について理解しているかどうかをみる問題。	1	漢字の由来・象形文字	10 漢字の様々な特徴を理解すること	46	44	55	1	
			2	漢字の由来・指事文字		51	53	46	1	
			3	漢字の由来・形声文字		21	18	81	1	
14		名詞・動詞・形容詞など、語句の類別を理解しているかどうかをみる問題。	1	単語の類別・名詞	11 言葉の性質と適切な仮名遣い	86	86	13	2	
			2	単語の類別・動詞		94	94	5	1	
			3	単語の類別・形容詞		45	45	53	2	
20		漢字を正しく書くことができるかどうかをみる問題。(光景・試合・周り)	1	漢字の書き・光景	12 漢字を正しく覚えて使うこと	21	26	48	26	
			2	漢字の書き・試合		65	64	21	15	
			3	漢字の書き・周り		68	59	26	15	

各校の通過率の欄には、それぞれの学校で自校の通過率を記入し、函館市の通過率と比較しながら、今後の指導に役立ててください。

↑は昨年度と比較して急激な伸び率の問題、▲は過去4年間で徐々に伸びている問題です。

平成18年度の調査結果から、課題が見受けられるものとして、「話すこと・聞くこと」領域では『スピーチするときの注意』、「書くこと」領域では『段落の構成を考えて書く』、「 읽 ること」領域では『文脈に合う語』『要約した内容の理解』『指示語の内容理解』『詳しい内容の 읽 取り』、「言語事項」では『漢字の由来』『漢字の書き』が挙げられる。

そのため、今後の国語科の学力向上を目指し、14ページ以降に述べられている3つをポイントとして学習指導の改善に努めたい。

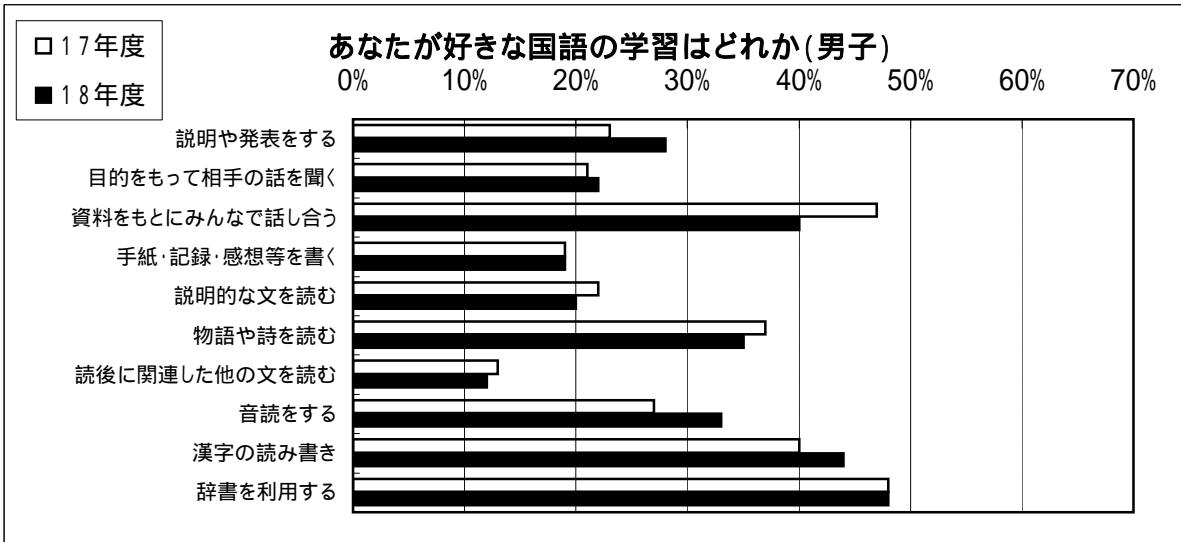
国語の学習に関する意識調査の結果 < 過去2年間 >

調査時期 ; (17年度)平成18年2月～3月(18年度)平成19年1月～2月
 調査児童 ; 函館市の学力検査実施学年の児童

男子 (17年度) 1059名, (18年度)1112名
 女子 (17年度)1066名, (18年度)1103名

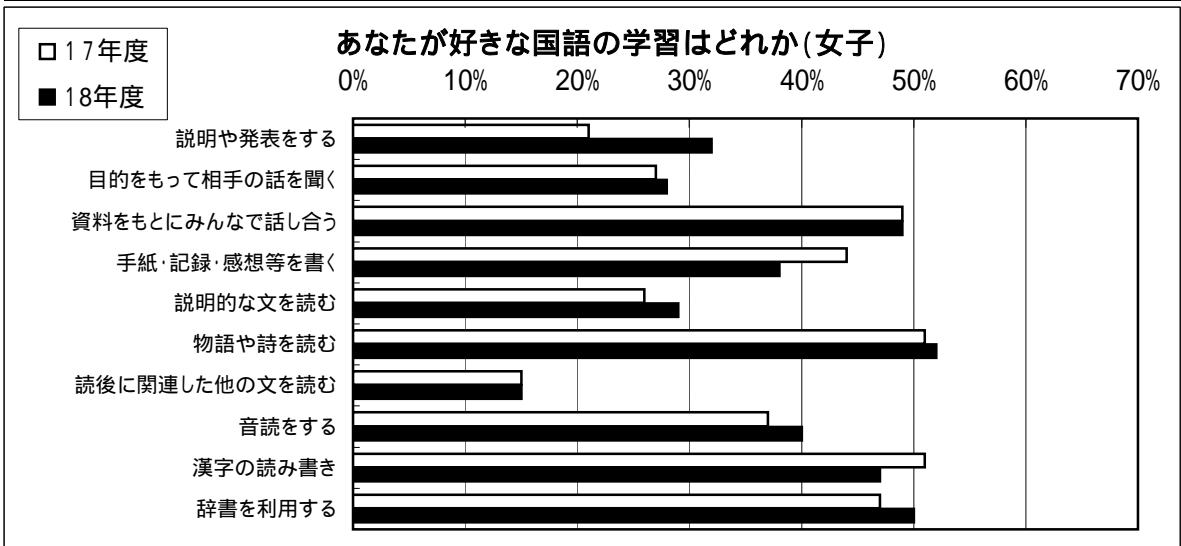
設問 ・あなたが好きな国語の学習はどれか(男子)

	説明や発表をする	目的をもって相手の話を聞く	資料をもとにみんなで話し合う	手紙・記録・感想等を書く	説明的な文を読む	物語や詩を読む	読後に関連した他の文を読む	音読をする	漢字の読み書き	辞書を利用する
17年度	23%	21%	47%	19%	22%	37%	13%	27%	40%	48%
18年度	28%	22%	40%	19%	20%	35%	12%	33%	44%	48%



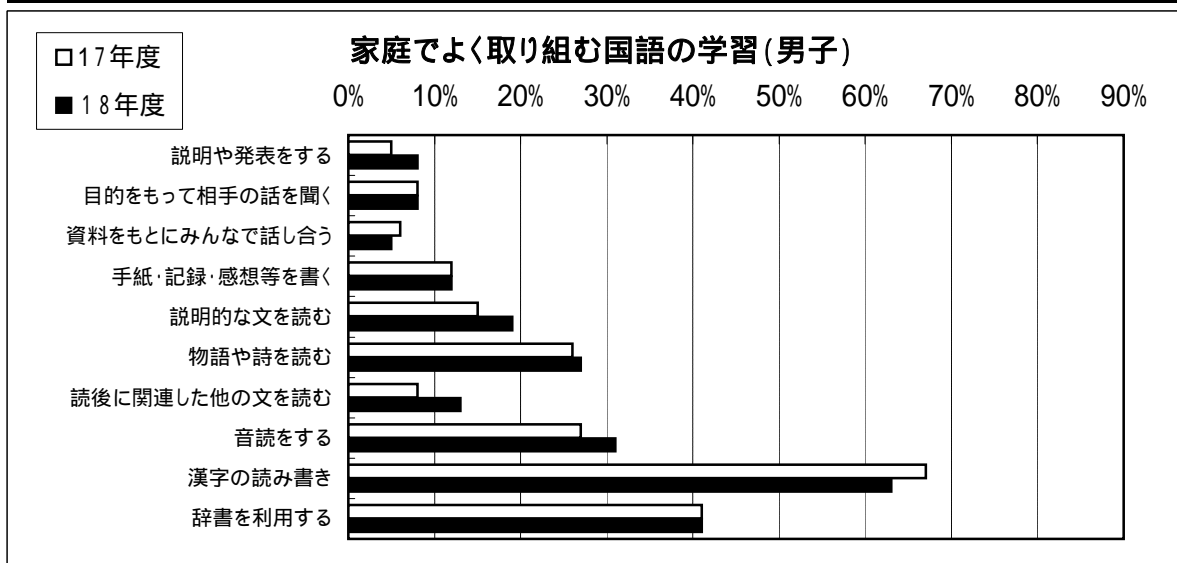
設問 ・あなたが好きな国語の学習はどれか(女子)

	説明や発表をする	目的をもって相手の話を聞く	資料をもとにみんなで話し合う	手紙・記録・感想等を書く	説明的な文を読む	物語や詩を読む	読後に関連した他の文を読む	音読をする	漢字の読み書き	辞書を利用する
17年度	21%	27%	49%	44%	26%	51%	15%	37%	51%	47%
18年度	32%	28%	49%	38%	29%	52%	15%	40%	47%	50%



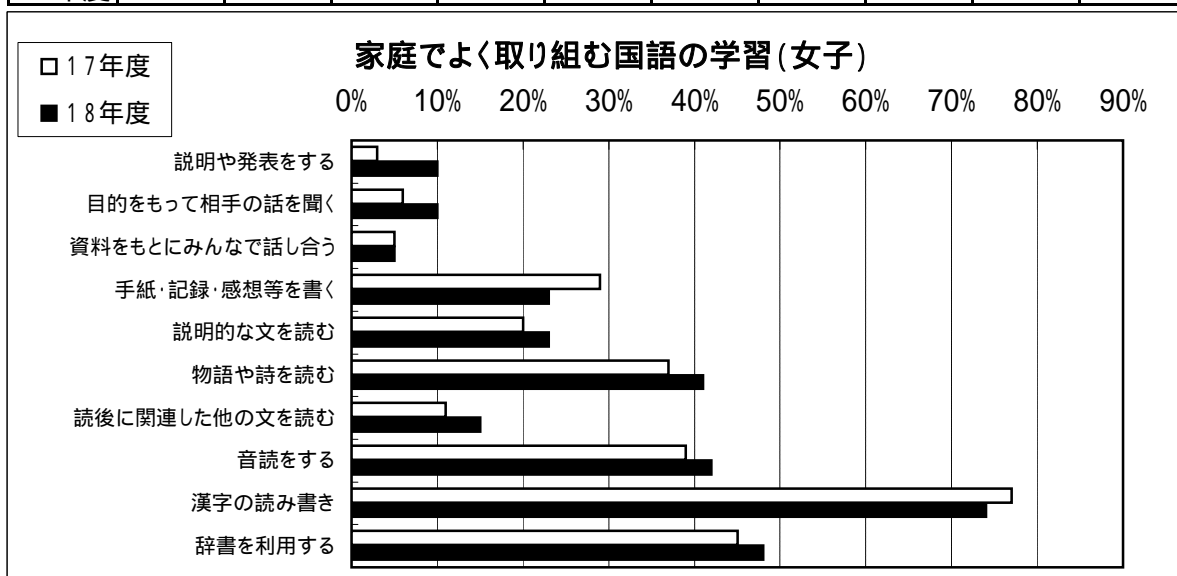
設問 ・・家庭でよく取り組む国語の学習(男子)

	説明や発表をする	目的をもって相手の話を聞く	資料をもとにみんなで話し合う	手紙・記録・感想等を書く	説明的な文を読む	物語や詩を読む	読後に関連した他の文を読む	音読をする	漢字の読み書き	辞書を利用する
17年度	5%	8%	6%	12%	15%	26%	8%	27%	67%	41%
18年度	8%	8%	5%	12%	19%	27%	13%	31%	63%	41%



設問 ・・家庭でよく取り組む国語の学習(女子)

	説明や発表をする	目的をもって相手の話を聞く	資料をもとにみんなで話し合う	手紙・記録・感想等を書く	説明的な文を読む	物語や詩を読む	読後に関連した他の文を読む	音読をする	漢字の読み書き	辞書を利用する
17年度	3%	6%	5%	29%	20%	37%	11%	39%	77%	45%
18年度	10%	10%	5%	23%	23%	41%	15%	42%	74%	48%



(2) 算数科

領域別問題通過率(平成17・18年度)

領 域		得点率%		通過率が高かった問題		通過率が低かった問題	
		17年度	18年度	通過率%		通過率%	
				17	18	17	18
数 と 計 算	1 整数の性質	66.2	63.3				
	2 整数や小数のしくみ	81.1	79.7	(知識・理解) 小数のしくみ	96	95	
	3 小数のかけ算とわり算	62.6	60.9	(表現・処理) 小数×整数 小数÷小数	90 78	90 79	(数学的な考え方) 小数の乗法のしかた 31 32 小数の除法の適用 43 43 小数の除法適用・立式 42 39 (表現・処理) 小数の除法・四捨五入 26 25 小数の除法適用・答え 39 37
	4 分数とそのたし算・ひき算	79.2	80.2	(表現・処理) 分数の加法 分数の減法 (知識・理解) 等しい分数	97 91 77	97 92 80	
	5 がい数, がい算	50.0	51.1				(表現・処理) 概数による和の見積もり 31 33
量 と 測 定	6 面積	57.8	58.5	(知識・理解) 三角形の求積法 平行四辺形の求積法	88 83	89 83	(数学的な考え方) 面積の関係の利用 42 46 台形の面積 44 40 (表現・処理) 三角形の面積 37 36
図 形	7 いろいろな図形, 平行・垂直	72.8	72.5	(知識・理解) 直線の垂直 直線の平行 平行四辺形の性質 平行線が交わった角度	85 81 81 93	82 78 80 93	
数 量 関 係	8 計算のきまり	54.1	54.3				(数学的な考え方) 計算のきまり・小数 47 49
	9 数量の関係の見方や調べ方	61.2	62.7				

検査結果における個々の問題の概要およびその通過率

評価の観点	大問	大問の内容	小問	小問の内容	小領域	17年度	18年度	各校の通過率	誤答率	無答率
						函館市の通過率	函館市の通過率			
1 関心・意欲・態度	2	小数と整数のしくみについて関心・意欲・態度をみる。		小数の学習への取り組み	関心・意欲・態度については、通過率は出されていないので、3ページの『観点別得点率』を参照する。					
	6	垂直や平行の勉強について、関心・意欲・態度をみる。		垂直・平行への取り組み						
	16	小数の乗法や除法について、関心・意欲・態度をみる。		小数の乗除への取り組み						
	22	計算のきまりについて、関心・意欲・態度をみる。		計算の決まりへの関心						
	27	概数について、関心・意欲・態度をみる。		概数の学習への取り組み						
	32	面積について、関心・意欲・態度をみる。		図形の面積への取り組み						
2 数学的な考え方	14	小数の乗法・除法の計算の仕方について考えることができるかをみる問題。	1	小数の乗法のしかた	3 小数のかけ算とわり算	31	▲ 32		65	3
			2	小数の除法のしかた		68	66	31	3	
	19	小数の乗法の適用問題。		小数の乗法の適用	3 小数のかけ算とわり算	52	50	30	20	
	20	小数の除法の適用問題。	1	小数の除法の適用・立式	3 小数のかけ算とわり算	42	39	57	4	
	17	具体的場面で除法を用いたとき、答えやあやまりを正しく求められるかをみる問題。		小数の除法の適用	3 小数のかけ算とわり算	43	43	53	4	
	34	整数の除法の結果を分数に表せるかをみる問題。		除法の結果と分数	4 分数と、そのたし算・ひき算	48	51	29	20	
	26	具体的な場面の目的に応じて、どのように概算すればよいかを問う問題。		目的に応じた概算・和	5 がい数、がい数	69	70	25	5	
	30	基本的な図形の面積の求め方を利用した求積問題。		複合図形の面積	6 面積	44	40	50	10	
	31	平行四辺形と三角形の面積に関する問題。		三角形の求積の応用	6 面積	42	▲ 46	37	17	
	5	平行な2直線どうしが、交わってできる角度について理解しているかをみる問題。	2	平行線が交わった角度	7 いろいろな図形、平行・垂直	67	63	33	5	
	8	4つに折った紙を切る時にできる形を考えることができるかをみる問題。		ひし形づくり	7 いろいろな図形、平行・垂直	71	↑ 79	19	2	
	24	六角形の内角の和を求められるかをみる問題。		六角形の内角の和	7 いろいろな図形、平行・垂直	64	65	31	4	
	21	四則に関して成り立つ性質を、小数の計算において考えることができるかをみる問題。	イ	小数の乗法の考え方	8 計算のきまり	47	49	45	6	
エ				小数の乗法の考え方		61	60	34	6	
33	底辺が一定の三角形において、高さや面積の2量の関係を考える問題。	1	面積と高さの関係	9 数量の関係の見方や調べ方	65	67	23	10		
		2	面積と高さの関係		53	53	35	11		
		3	面積から高さを求める		66	69	18	14		
3 表現・処理	11	与えられた整数の中から、偶数を選び出すことができるかをみる問題。		整数の類別・偶数	1 整数の性質	78	74	24	2	
	20	小数の除法の適用問題。	2	小数の除法の適用・答え	3 小数のかけ算とわり算	39	39	57	4	
	3	乗数や除数が整数である場合の、小数の乗法・除法の計算問題。	1	小数×整数	3 小数のかけ算とわり算	90	90	9	1	
			2	小数×整数		83	79	20	1	
			3	小数÷整数		78	75	23	2	
			4	小数÷整数		78	75	19	6	
	13	乗数や除数が小数である場合の、小数の乗法・除法の計算問題。	1	小数×小数	3 小数のかけ算とわり算	75	72	27	2	
			2	小数×小数		79	77	21	2	
			3	小数÷小数		76	76	19	5	
			4	小数÷小数		78	79	16	5	
18	小数の除法で、答えを1/10の位までの概数で求められるかをみる問題。		小数の除法・四捨五入	3 小数のかけ算とわり算	26	25	62	14		

評価の観点	大問	大問の内容	小問	小問の内容	小領域	17年度	18年度	各校の 通過率	誤 答 率	無 答 率	
						函館市の 通過率	函館市の 通過率				
3 表現 ・ 処理	10	同分母分数の加法・減法の 計算問題。	1	分数の加法	4 分数と、そ のたし算・ひ き算	97	97		2	0	
			2	分数の減法		91	92	8	0		
			3	分数の減法		83	81	16	3		
	25	具体的な場面の目的に応じて、和を 概数で見積もることができるかをみ る問題。		和の概数による見積もり	5 がい数,がい 数	31	33		62	5	
	29	三角形や平行四辺形の 求積問題。	1	三角形の面積	6 面積	47	45		47	8	
			2	三角形の面積		37	36	55	10		
			3	平行四辺形の面積		66	66	25	8		
	23	三角形の内角の和を基に、 角の大きさを求められるか をみる問題。	1	三角形の角	7 いろいろな 図形, 平行・ 垂直	72	72		24	4	
			2	三角形の角		63	66	26	7		
			3	三角形の角		76	77	18	6		
	4 知識 ・ 理解	12	奇数がどのような数か理解 できているかをみる問題。		整数の性質・奇数	1 整数の性質	55	53		36	12
		1	小数の記数法について の問題。	1	小数の構成	2 整数や小 数の仕組み	80	79		21	0
2				小数の構成	96		95	4	0		
3				小数・100倍	71		69	31	0		
4				小数・100分の1	78		75	24	1		
15		乗数や除数が小数の場合の積や商の 大きさについて問う問題。	1	小数の乗法の意味	3 小数のかけ 算とわり算	79	77		22	1	
			2	小数の除法の意味		53	52	47	2		
9		等しい分数の理解をみ る問題。	ウ	等しい分数	4 分数と、そ のたし算・ひ き算	79	79		19	2	
			カ	等しい分数		77	80	18	2		
28		三角形や平行四辺形の面積の求め方 を理解しているかをみる問題。	1	三角形の求積法	6 面積	88	89		5	6	
			2	平行四辺形の求積法		83	83	11	6		
4		直線の垂直・平行について理解して いるかをみる問題。	1	直線の垂直	7 いろいろな 図形, 平行・ 垂直	85	82		17	1	
	2		直線の平行	81		78	21	1			
5	平行な2直線どうしが、交わってで きる角度について理解しているかを みる問題。	1	平行線が交わった角度	7 いろいろな 図形, 平行・ 垂直	93	93		5	2		
7	平行四辺形の性質についての理解を みる問題。	ウ	平行四辺形の性質	7 いろいろな 図形, 平行・ 垂直	81	80		20	1		
		エ	平行四辺形の性質		54	57	42	1			

各校の通過率の欄には、それぞれの学校で自校の通過率を記入し、函館市の通過率と比較しながら、今後の指導に役立ててください。

↑ は昨年度と比較して急激な伸び率の問題、▲ は過去4年間で徐々に伸びている問題。

誤答率に着目したところ、特定領域の小問（数と計算の「小数のかけ算とわり算」と「がい数」、量と測定「面積」、数量関係の「計算のきまり」等）における「表現・処理」や「数学的な考え方」の力の育成が課題として挙げられる。

したがって、子どもが数量や図形についての豊かな感覚を伴いながら意味を理解したり、考えを進めたり、活用したりできるようにするために、日常の指導において様々な算数的活動を積極的に取り入れることが大切である。

また、各校においては、結果から導かれる課題について共通理解をし、各領域の系統性をふまえながら、全校体制で指導計画を見直す必要がある。

以上の結果と課題を受け、今後の算数科の学力向上を目指すための3つのポイントを、14ページ以降に示すこととする。

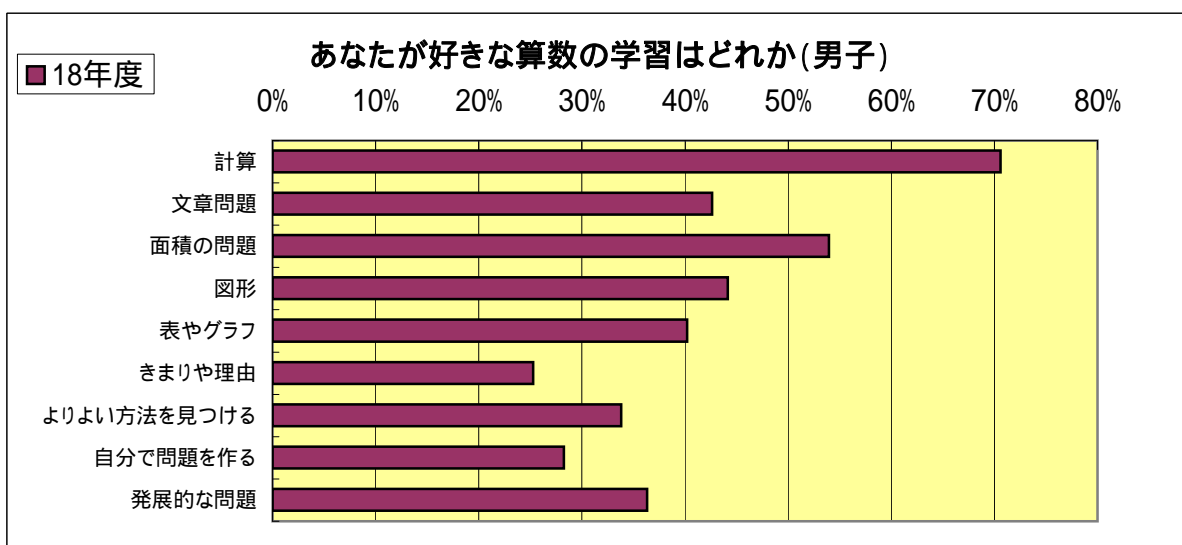
算数の学習に関する意識調査の結果

調査時期；(18年度)平成19年1月～2月
 調査児童；函館市の学力検査実施学年の児童
 男子(18年度)1,112名
 女子(18年度)1,103名

注意) 18年度に設問を見直したため、18年度の結果のみ掲載しています。

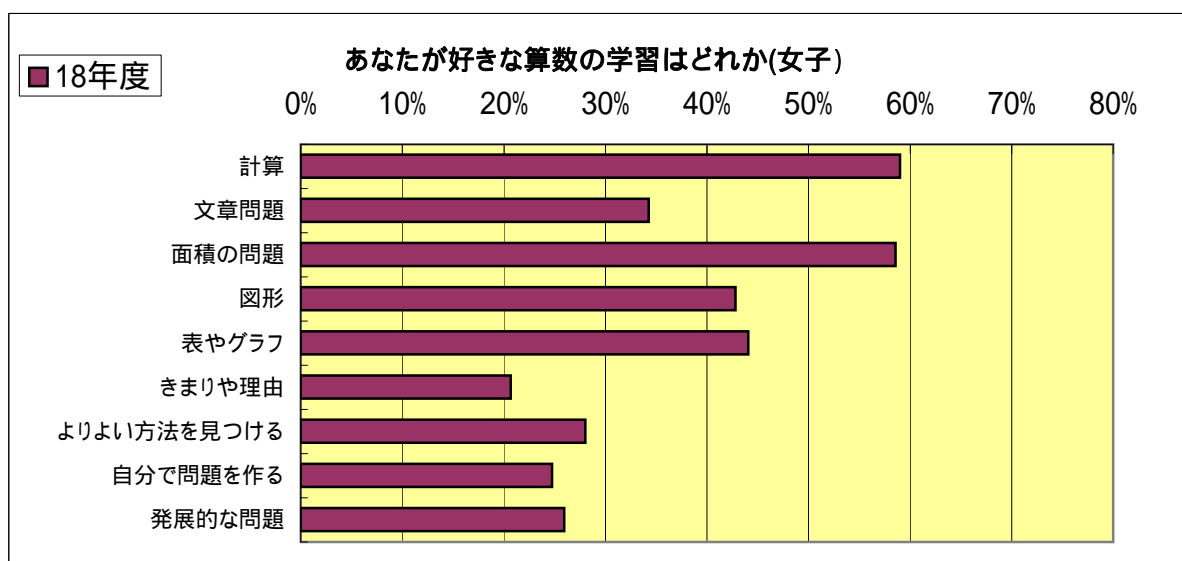
設問・・・あなたが好きな算数の学習はどれか(男子)

	計算	文章問題	面積の問題	図形	表やグラフ	きまりや理由	よりよい方法を見つける	自分で問題を作る	発展的な問題
18年度	71%	43%	54%	44%	40%	25%	34%	28%	36%



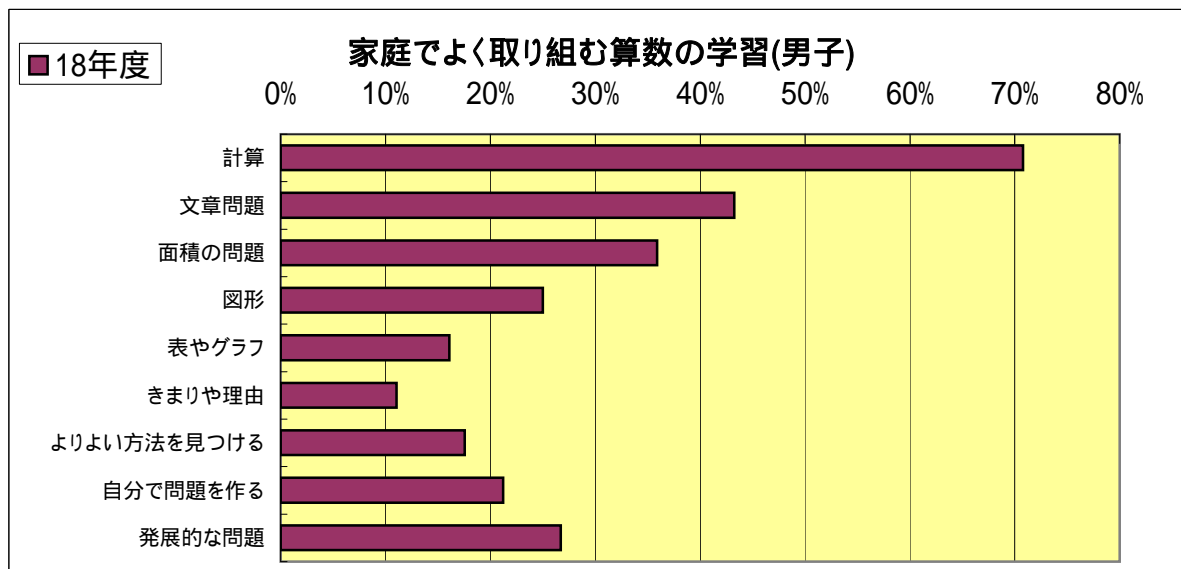
設問・・・あなたが好きな算数の学習はどれか(女子)

	計算	文章問題	面積の問題	図形	表やグラフ	きまりや理由	よりよい方法を見つける	自分で問題を作る	発展的な問題
18年度	59%	34%	59%	43%	44%	21%	28%	25%	26%



設問 ・・家庭でよく取り組む算数の学習(男子)

	計算	文章問題	面積の問題	図形	表やグラフ	きまりや理由	よりよい方法を見つける	自分で問題を作る	発展的な問題
18年度	71%	43%	36%	25%	16%	11%	18%	21%	27%



設問 ・・家庭でよく取り組む算数の学習(女子)

	計算	文章問題	面積の問題	図形	表やグラフ	きまりや理由	よりよい方法を見つける	自分で問題を作る	発展的な問題
18年度	75%	52%	41%	28%	20%	14%	19%	23%	26%

